

資
料

身延山諸堂記

身延山再建諸堂記

身延山再々建諸堂記

校註・北 沢 光 昭

編纂・身延山短大仏教文化研究所

○身延文庫所蔵の写本「身延山諸堂記」「身延山再建諸堂記」「身延山再々建諸堂記」により、文明六年、十一世行学院日朝上人の代、西谷から現在地に移転した諸堂の、大概明治・大正時代に至る諸堂塔変遷の状況を知り得る。殊に、文政七年・明治八年の諸堂焼失の現在にあって、その時々々の荘麗なる寺観を窺うに欠かせぬ、集成された記録として唯一のものである。

○該記録は全三巻三冊よりなり、第一巻は題外「身延山諸堂記卷」(題内「身延山諸堂塔建立記録」)、第二巻は題外「身延山再建諸堂記」(題内「身延山再々建立記録」)、第三巻は題外「身延山再々建諸堂記」(題内「身延山再々建立記録」)である。

○該記録の体裁は、第一巻は、縦二二・三センチメートル、横一五・六センチメートル、二十行野紙の袋綴、板心の表側に丁数を記している。丁附は一四二であるが、墨付一四〇丁である。第二巻は、縦二二・六センチメートル、横一五・九センチメートル、十八行野紙の袋綴、板心に項目を記し、その表側に丁数を記している。丁附は一四九墨付は一四二丁。第三巻は、縦二二・七センチメートル、横一五・六センチメートル、二十行野紙の袋綴、板心に項目を記し、丁附は板心の表側の欄外上に記し、この巻は特に加筆を見込んだ白紙が多い。丁附は二〇一、墨付は三五丁。

○該記録は、身延山三十三世遠沾院日亨上人による正徳二年の正本(第一巻一〇六丁表)を、妙俊院日寿上人が嘉永七年に写した(第一巻一丁表)事に始まり、以後、主に日寿上人による追加記録(第一巻二丁表・一〇七丁表)である。日亨上人による正徳二年の自筆本の所在は現在知る事ができない。

第一巻は、前述の嘉永七年二月の写本と、日寿上人による補足・追加の記録で、主として文政年中の火災以前の状

身延山諸堂記外（北沢）

況が知られる。第二巻は、安政四年三月に記録を編集したもので、文政年中の再建から、明治八年焼失の堂塔が中心の記録である。第三巻は、明治八年一月より記録を始めたもので、大火災後の復興状況が知られる。この為に全体に亘って記録予定を見込んだ白紙が多い。

妙俊院日寿上人の略伝は、「身延山史」三四三頁（新版「身延山史」三三二頁）にあるので詳述を避けるが、終身延にて生活し、明治大火災後の諸堂宇再建計画の実施に参画した事は第二・三巻中に見える所で、「身延山史」の編纂者の「現存せる祖山の古記録は……師が丹精の賜物」の言を俟つまでもなく、質・量ともにこの三巻三冊の記録は、身延山史に欠くべからざるものである。

○日享上人による正本が正徳二年に成立した事は先に述べた所であるが、改訂本も存在した。それは宮内庁書陵部所蔵の写本「^{甲州}身延諸堂細調録」（『身延山久遠寺諸堂等建立記録』四十五丁と『身延山御歴代譜』の二部より成り、全五十一丁、一冊）に記載する原本の奥書により知られる。改訂本は「正徳三竜集癸巳春改之書」したものである。

書陵部所蔵本は、安政六年十月、信州松本「迦葉山妙福寺日胎聖人原本」による鍊頭上人の写本である。

書陵部所蔵本の堂塔記載の順序は身延文庫所蔵本と異なるが、目次に丁数を参考として付記した。この写本の全文は「御本尊鑑 遠沾院日享上人」（藤井教雄編・昭和四十五年十一月刊・身延山久遠寺発行）の第二部に活字化されている。（但し、丁付はない。）

○諸堂の旧観を知る手掛りとして、数多くの地誌・紀行なども見逃せない。本稿ではこの点の詳述を目的としないので、書名を列記するに止めるが、一般的に地誌の類に諸堂等の記述が詳細に亘るのは、「案内」を主内容とするの

で当然であり、他方、紀行の類は「実感」が中心であれば、描写に特色を有するものが少なくない。主な著述は次の如くである。

△地誌▽「久遠寺参詣記」(延宝九年刊『日蓮上人御伝記』卷十)、「身延鑑」(貞享・元禄・宝曆・天保の各版)、「みのぶ山ひとり案内」(安永九年刊、一冊、北沢光昭蔵)、金子日徳著「延嶺袖鏡順詣記」(文政二年成立、版本、他の二書と合一冊、無窮会^{神智蔵}蔵)、村上某著「甲州嘶」(享保七年成立)、鶴鼠子著「裏見寒話」(宝曆二年序文)、大森快庵著「甲斐叢記」(前輯、嘉永四年刊)

△紀行▽元政上人著「身延行記」(寛文三年刊)、享弁(法住院日義上人)著「萩の名ごり」(延享四年成立)、篤子刀自著「安永身延紀行」(安永五年成立)、稻懸棟隆著「身延杖」(同年成立)、喜左衛門著「日記帳」(安永九年成立、鶴岡節雄校注「十返舎一九の甲州道中記」所収)、佐竹邦著「身延紀行」(寛政元年成立、写本一冊、宮内庁書陵部蔵)、加賀屋善蔵?著「おさな車」(寛政九年成立)、吉沢某著「道記」(文政元年成立、原本一冊、最首雅晴氏蔵)、清水浜臣著「甲斐日記」(文化年中成立)、日擬上人著「延山紀行」(文政十三年成立)、黒川春村著「並山日記」(嘉永三年成立)、松亭金水著「松亭身延紀行」(万延元年成立、写本一冊、国立国会図書館蔵)、霞江庵翠風著「甲州道中記」(慶応二年成立)、「みのぶのしるし」(写本一冊、九州大学蔵)

右著作中、その刊本・写本等の所蔵先を明示しないものは、先人の紹介が既にあつたものである。地誌・紀行は他にもあり、文芸作品・絵図・錦絵など加えると、五十点を越えるものがみられる。

各所蔵先より資料の御提供を受け、鶴岡節雄氏よりは種々御教示を受けました。厚く感謝の意を表します。

○全文の翻刻にあたって、次の様にした。

身延山諸堂記外(北沢)

身延山諸堂記外（北沢）

- ・ 丁付を示す数字と、その丁の「表」を「オ」と、「裏」を「ウ」として本文の上に示した。
- ・ 頁と丁の終りにあたる部分は』により示し、行末は「」で示した。
- ・ 漢字は、旧字・異体字など、ほぼ通行のものに直した。
- ・ 明らかな誤字は直したものもある。宛字・送り仮名など、通行でないものに（ママ）と付した。
- ・ 項目毎に「註」として記したものは、頭註・脚註・押紙であるが、本文中の該当箇所、又は近い箇所を以て(1)(2)等と示した。朱字の記載はその旨を示し、頭註・脚註・押紙の別は最後に示した。
- ・ 該記録原本で使用されている特殊な送り仮名「ㇿ」・「ソ」・「ク」・「ヒ」は、夫々に「コト」・「シテ」・「ナリ」・「トモ」のように改めた。

○今回は第二卷「身延山再建諸堂記」、第三卷「身延山再々建諸堂記」の全文を翻刻する。

目次

。堂塔の下の漢数字は「巻数」を、洋数字は「丁数」を示す。
 。() 内の数字は、書陵部本の丁数を示す。

| | | | |
|---------------------------------|-------------------------|-------------------------|------|
| 惣門 | 一 2 | 二 201 | (12) |
| 逢島ノ祖師堂 | 一 2 | 一 134 | (12) |
| 太平橋 | 一 3 | 一 141 | (13) |
| 稻荷大明神社・拜殿 | 一 3 | | (13) |
| 三門・廊門 | 一 4 | 二 50 三 70 | (9) |
| 三門常唱堂・頭寮・香積・結衆寮 | 一 8 | | (12) |
| 同常作事長屋 | 一 8 | | (12) |
| (重栄梅) 天神宮・兩屋 | 一 9 | | (11) |
| (聖徳) 太子堂 | 一 9 | | (11) |
| 浴室 | 一 9 | | (11) |
| 石壇 | 一 9 | 一 127 | (13) |
| 二天門 <small>水</small> 石灯籠 | 一 10 | 二 54 二 103 | (9) |
| 本堂灯籠 | 一 11 | 二 31 二 103 三 43 | (2) |
| 祖師堂 <small>水鉢・宝塔・灯籠・出仕ノ</small> | 一 12 | 二 24 一 25 一 丁末 二 2 二 48 | (2) |
| <small>燈下・本堂へノ燈下</small> | 二 94 二 96 二 97 二 98 三 2 | | (3) |

身延山諸堂記外(北沢)

| | | | |
|------------------------------|------|----------------|------|
| 位牌堂 <small>祖師堂ノ燈下</small> | 一 15 | 二 44 二 46 二 97 | (5) |
| 本地塔(堂) | 一 15 | 二 90 | (5) |
| 二重宝塔 | 一 16 | 二 66 | (1) |
| 灯主堂・万灯室 | 一 19 | 二 70 | (5) |
| 鼓楼(堂) 灯籠 | 一 19 | 二 78 二 103 | (8) |
| 円師堂 | 一 20 | 二 63 | (7) |
| 椎鐘堂・番部屋(大鐘楼) | 一 21 | 二 84 三 25 | (7) |
| 舞台 | 一 23 | 二 74 | (6) |
| 同菜屋・廊下 | 一 23 | 二 74 | (6) |
| 普請所長小屋 | 一 23 | | (7) |
| 供厨(御供所) | 一 24 | 二 101 | (7) |
| 通本橋・回廊 <small>位牌堂ノ燈下</small> | 一 26 | 二 97 二 106 | (9) |
| 十二時鐘・番寮 | 一 27 | 三 23 | (13) |
| 釈迦堂 | 三 27 | | (13) |
| 納骨堂土蔵 | 三 65 | | (13) |
| 宝物館 | 三 69 | に入紙 | (13) |
| △本院之分▽ | | | |
| 中門 <small>(前門)</small> ・長屋 | 一 29 | 一 139 | (16) |
| 来大門 | 一 29 | 二 171 | (16) |
| 毘門下馬札 | 一 30 | | (16) |

身延山諸堂記外(北沢)

| | | | |
|------------------------------|---|----------------------|------|
| 塩沢口(札) | 一 | 30 | (16) |
| 会合所・玄関式台 | 一 | 31 二 150 | (14) |
| 厨子(司) | 一 | 34 二 164 | (16) |
| 対面所・次間 | 一 | 34 | (16) |
| 小方丈 | 一 | 35 二 143 | (17) |
| 大方丈・唐門・浴所 | 一 | 36 二 146 | (17) |
| 藏経堂(一切経藏) | 一 | 37 二 139 三 185 | (17) |
| <small>唐本一切經 唐小經</small> | | | |
| (真骨)宝藏 | 一 | 40 二 109 三 14 | (19) |
| 宝藏中央・廊下 | 一 | 44 二 114 三 19 | (21) |
| 同拜殿 | 一 | 45 二 114 三 19 | (21) |
| 奥位牌堂 | 一 | 47 二 134 三 32 | (22) |
| 古仏堂 | 一 | 48 二 128 | (22) |
| 霊宝藏・拜殿 | 一 | 51 | (23) |
| 東土藏 | 一 | 52 | (24) |
| 経堂前ノ庭泉水等 | 一 | 53 | (24) |
| 廊下七ヶ所 | 一 | 53 | (24) |
| (奥)書院・学問所・休息所 | 一 | 53 二 160 | (24) |
| 料理所 | 一 | 54 | (25) |
| 湯浴所 | 一 | 54 | (25) |
| 金支配部屋 | 一 | 54 | (25) |
| 新土藏 | 二 | 172 | (25) |

| | | | |
|------------------|---|-------------|------|
| 永守稻荷社・雨屋 | 二 | 174 | |
| 奥書院・山主ノ居間 | 三 | 35 | |
| 大書院 | 三 | 36 | |
| 小書院 | 三 | 37 | |
| 講究所・玄関式台 | 三 | 38 | |
| 生徒寮・廊下 | 三 | 38 | |
| 仮厨司 | 三 | 39 | |
| 受附所・内玄関式台 | 三 | 39 | |
| 物置長屋 | 三 | 39 | |
| 普請会所等 | 三 | 40 | |
| 法喜堂(厨司・庫裏) | 三 | 53 | |
| 大客殿 | 三 | 56 | |
| △從上之山通至奥之院之部▽ | | | |
| 祈禱堂・番寮・廊下 | 一 | 55 | (25) |
| 願主堂 | 一 | 58 | (26) |
| 鐘樓堂 | 一 | 59 | (27) |
| 影現七面大明神・幣殿・拜殿・鳥居 | 一 | 60 | (27) |
| 番神社(八幡宮)・拜殿 | 一 | 61 二 129 | (27) |
| 五重(宝)塔 | 一 | 62 二 175 | (27) |
| 利堂(十如房) | 一 | 64 二 131 | (28) |

| | | | |
|------------------------------------|-------|-------|------|
| 児文殊宮・児水 | — 65 | — 126 | (29) |
| 宝塔 | — 66 | | (29) |
| 庭師ノ廟堂 | — 67 | | (30) |
| 一切経蔵 | — 67 | | (30) |
| 経蔵側廟塔 <small>(願性院 八雲宮)</small> | — 68 | | (30) |
| 丈六釈迦堂 | — 69 | | (31) |
| 相輪塔 | — 70 | | (31) |
| 大黒堂 | — 70 | | (31) |
| 三光堂・拝殿・番僧寮・大光坊 | — 71 | — 124 | (31) |
| 金仏釈尊像 | — 72 | | (32) |
| 常題目堂 <small>(堂唱堂・法久庵)</small> ・衆寮 | — 73 | — 132 | (32) |
| 東照大権現宮・雨屋 | — 73 | — 128 | (32) |
| 妙見大菩薩宮 | — 74 | | (32) |
| 水屋庵 <small>(堀水庵 滋明坊)</small> | — 74 | — 133 | (33) |
| 奥院祖師堂・拝殿 | — 75 | — 80 | (33) |
| 二王門 <small>(二天門)</small> | — 77 | — 121 | (35) |
| 椎鐘堂 | — 78 | — 121 | (35) |
| 別当寮 <small>(孝東院)</small> | — 79 | — 121 | (35) |
| 籠屋 | — 79 | — 122 | (35) |
| 御供所 | — 79 | | (35) |
| 井水 | — 137 | | |

身延山諸堂記外(北沢)

| | | | |
|-----------------------------------|------|-------|-------|
| △西谷通七面山詣▽ | | | |
| 朝師堂 <small>(取谷 箕林坊)</small> | — 80 | — 190 | (45) |
| 西谷檀林善学院諸堂 | — 80 | | (44) |
| 常経堂・衆寮・食堂 | — 84 | | (37) |
| 廟番僧寮 <small>(妙福庵)</small> | — 84 | | (37) |
| 収骨堂 | — 84 | | (37) |
| 犬ノ塔 | — 85 | | (37) |
| 釈迦堂 | — 85 | — 136 | (36) |
| 祖師廟堂・拝殿 | — 86 | — 181 | (36) |
| 阿仏房日得聖人ノ塔 | — 89 | | (37) |
| 御草庵旧跡 | — 68 | | |
| 田代祖師堂・庵 <small>(妙石庵)</small> ・妙法社 | — 90 | — 115 | — 116 |
| 松之息ミノ寮 <small>(松樹庵)</small> | — 91 | — 107 | (38) |
| 追分ノ寮 <small>(感井坊)</small> | — 91 | | (38) |
| 十万部 | — 91 | | (39) |
| 赤妙福寺 | — 92 | | (39) |
| 神力房 | — 93 | | (39) |
| 蓮華房 | — 93 | | (39) |
| 鳥居 | — 94 | | (40) |

身延山諸堂記外（北沢）

| | | | | | | |
|-------------|---|-----|------|------------|---|-----|
| 北神通坊 | — | 94 | (40) | 松尾大明神社（西谷） | — | 195 |
| 結安住房 | — | 95 | | 寿量院社（別当） | — | 197 |
| 肝心房 | — | 95 | | 地神宮（南谷） | — | 199 |
| 中ノ茶屋（中適房） | — | 95 | (40) | 清正堂（遠泉坊） | — | 200 |
| 晴雲房 | — | 96 | | 清兮寺 | — | 63 |
| 勢加万年橋・羽衣橋 | — | 96 | 106 | 小檀林教場 | — | 76 |
| 宗悦房 | — | 96 | 108 | 祖山学院 | — | 76 |
| 七面山諸堂等 | — | 96 | 112 | | | |
| 甲州七面山鐘銘并叙 | — | 101 | (41) | | | |
| 七面山神祠修營疏 | — | 102 | (42) | | | |
| 七面山神祠記 | — | 103 | (43) | | | |
| 池大神宮 | — | 105 | (44) | | | |
| 影向石ノ社 | — | 106 | (44) | | | |
| 波木井日円之古地・廟所 | — | 106 | 140 | | | |
| 帝釈堂（西谷） | — | 183 | (45) | | | |
| 辰師堂（東谷） | — | 187 | | | | |
| 興師堂（醍醐谷） | — | 189 | | | | |
| 妙見宮（中谷） | — | 191 | | | | |
| 尊賀堂（西谷） | — | 193 | | | | |
| 二十三夜堂（片原） | — | 194 | | | | |

(1オ)

文久四甲子二月廿日正九ツ時山火燔正堂寺中三ヶ坊焼失
慶応元乙丑十二月十四日辰四ツ時山台坊ヨリ出火松尾屋三夜堂妙見堂
三門太子堂天神堂常磐堂妙稻荷社
焼失

安政四丁巳年三月改之輯之写

第二之卷

身延山 再建立記録
諸堂塔

明治八乙亥歳一月十日午後六時西谷本種坊ヨリ
出火諸堂等不殘類焼失四十七棟
(巻三) (巻四) 印

(1ウ)

本堂 祖師堂 位牌堂 二天門 円師堂 鼓樓 推
鐘堂并番所 二重塔 万灯室 灯主堂 舞台并楽屋
水鉢雨屋 御供所 会所 作事小屋 通本橋并屋根
祈禱堂 脱師堂 夏鐘堂 影現七面本社并幣殿 拜
殿 五重塔 延師廟堂 大方丈 水鳴樓 経蔵 真
骨宝蔵 中央 廊下 拜殿 古仏堂 永守稻荷社 奥
書院并膳所 大庫裏 寄附茶ノ間 文関式台 対面
所 院代部屋并役所 穀倉味噌倉 小庫裏 十軒部
屋 時ノ鐘堂并一番小屋 廊下十三ヶ所 手水場
十ヶ所 風呂場三ヶ所 惣計 七十三棟

身延山諸堂記外 (北沢)

(2オ)

尊賀堂 琥珀稻荷社 辰師堂 興師堂 寺中拾二坊
町三軒
棟数大小百四十二棟焼失也

[註]

(1) 小計四十七棟 (頭註・朱字) (2) 朱字

祖師堂 二十間四方棟各二面瓦

前ノ祖師堂者文政七甲申八月廿七日申ノ下刻ニ焼失

第五十五世日蓮師代再建企之

同五十八世日環師代上棟

環師棟札文政十三年庚寅歳十一月十日吉辰上棟同

裏書

祖師堂再建之始

五十五代日蓮尊師 (時之院代) 養心院日遊聖人 文政十三庚寅七月十八日化

五十六代日晴尊師 (時之院代) 大蓮院日遊聖人 天保八丁酉五月二日

五十七代日舜尊師 (時之院代) 真如院日遊聖人 文政十二己丑三月朔日

六十三歳

五十八代日環尊師 (時之院代) 長徳院日遊聖人 嘉永七甲寅八月五日村

同 是中院日遊聖人 文政十二己丑九月二十

田化 七日化

(2ウ)

身延山諸堂記外（北沢）

祖師堂再建元方 東都下谷宗延寺隱居 重厚院日実聖人文政十二己丑正月

六日

同 本所本仏寺隱居 智善院日誦聖人嘉永己卯真陰日

西十月十五日
拾下改

甲州西郡一ノ瀬抄了寺現住 太研院日梵聖人天保二辛卯五月十

二日

一老啓運院日修聖人弘化二乙巳五月廿八日

院代是翰院日登聖人安政六己未七月十一日下谷化八十一歳

三老海寿院日量聖人天保三辰十月五日五十五歳

四老慈善院日鉢聖人安政二乙卯八月廿六日

五老教智院日行聖人天保十己亥十二月十七日六十四歳

中頭本浄院日順聖人嘉永五壬子十一月廿八日七十九歳

番頭亮玄院日照聖人天保五甲午九月四日

当番潮養院日範聖人天保六乙未五月廿九日

海運院日隨聖人安政三丙辰十一月十五日七十五歳

顛円院日報聖人安政三丙辰四月十五日六十四歳

潮解院日明聖人嘉永三庚戌十月十三日六十歳

太寿院日永聖人文政十三庚寅九月八日

太量院日考聖人天保十四癸卯三月廿日

本考院日侃聖人天保十三壬寅十二月廿八日五十八歳

普請奉行

龍房三十三世潮誦院日解聖人天保三壬辰十月廿七日

岸之房三十四世本寿院日光聖人天保十五甲辰七月廿一日

常榮房十六世是明院日清聖人天保九戊戌八月六日四十八歳

普請方

智寂房十三世潮運院日惠天保五甲午八月十九日

嶋場房三十八世太林院日建天保十五甲辰八月廿六日四十七歳

蓮宮房十二世太堂堂院日棟嘉永六癸丑三月十八日五十八歳

光精房六世学翁院日永天保九戊戌九月九日

龍之房三十世太運院日勢弘化四丁未三月十八日五十二歳

大工碩梁池上主計致昆捨師成小倉兩右衛門

池上織衛玄明同世孫役遠藤三郎兵衛

東郡彫工島村源藏俊矩 佐野繁八

大工肝煎池上龜之亟宗忠袖木挽頭池上宗右衛門

池上万吉玄宣(3) 市川重左衛門

池上新之亟宗員(4) 同世孫役橋爪太次郎

海沼浅右衛門宗藏 池上治兵衛

吉野忠藏吉純 望月儀助

望月為右衛門嘉治 小倉縫之亟
古谷繁右衛門仲澄左山村遠藤茂七

(4才)

(3ウ)

(3才下段)

(3才上段)

(4ウ)

奥野嘉兵衛伴幸 建方尾州 名古屋船 橋半七

武田千蔵宗武 山切地形 緑伝兵衛 永野治平

深沢惣吉保政 山切地形 緑伝兵衛 竹下利助

清権蔵矩徳 昔時方望月久四郎 池上幸助宗美

池上幸助宗美 昔時方望月久四郎 同苗佐四郎

望月又吉宗栄 昔時方望月久四郎 同苗佐四郎

池上惣兵衛敏昭 昔時方望月久四郎 佐野作之丞

池上喜十郎宗利 昔時方望月久四郎 宮川七左衛門

以上棟札

祖師御遷座天保二辛卯四月二日

御堂開眼 同三日ロリ十二日迄千部法用

御宮殿開眼同十三日 十四日法用勤之

同年九月廿七日ロリ十月十三日迄宗祖五百五十遠忌

万部法用勤之五十八世日環師代

御宮殿 施主ハ大坂身延年中

御宮殿ノ内ニ左右掛札二枚有之又明細施入ノ巻物二巻箱入ニシテ一巻有

御宮殿ノ内ニ有之外ニ一巻御経机ノ引出シニ有之花天并施入巻物一巻有

之」世話人同 正覚寺母村田宗徳 正覚寺僧木竹屋半次郎 京都大仏師

御持経ハ 如来神力品

身延山諸堂記外(北沢)

(5オ)

御持珠教 天台末赤持檀男白赤ナリ 殿神香

御戸帳 赤地ノ錦表紋二ツ附紋ノ寸法卷尺五寸、リ 長サ六尺 横巾六尺四寸ナリ

御施主

戸帳 明文久二辛卯年納ル 孫師御代納ル 御施主表御紋二ツ付

戸帳 明治五年六月開帳ノ御 健師御代也 施主日本橋十三日隣之内座子連中納之并桁橋紋二ツ付

御鍵箱表紋附

御施主一ツ橋大奥 取次大僧住 慶字

同台文化四年丁卯年八月江戸開帳ノ御納之

書写妙経開結共拾巻

御施主御本丸御連名第一ノ巻ノ終ニ有之

同御机天保二辛卯四月八日法橋林如本エト有之

御洗米入 銅蓮華形

施主江戸芝口河内屋等右衛門

同台引出シ附

御手箱

御施主文政四巳年八月十六日様

御書棚

御経机ノ台

御宮殿内宝蓋

右妙日尊儀御位牌両基厨子入御宮殿ノ内左右ニ有之

身延山諸堂記外(北沢)

(6オ)

左 妙蓮尊儀ウラニ 文政八年乙酉二月 日蓮判形」

大檀越日円尊儀御位牌御宮殿ノ外岸ニ有之

永代五種香料 金五拾両 施主 当山國沢房三十九世 位牌須弥壇ニ有之
瀬応院日喜聖人 天保四癸巳正月十三

日化」

永代常経 金五十両 天保四癸巳四月 位牌有之」
北高川代參拵ウラニ 中

永代常経 金百両 從毎月朔日至十五日ニ 同有之」
江戸小伝馬町大黒屋平十郎

永代常経施主 内 金拾両 天保八酉八月 同有之」
江戸富沢町常経拵ウラニ 中ノ内妙久尼」

須弥上天井竜画并 同裏張附蓮華画 甲陽雲林筆」

後門十六羅漢画 東都宗巨齊筆影紙」

永代金百両 尾州藩中永平六大夫 常経 慶応三卯十一月祥師代納之」

作り花并 大花瓶一对 其繪 文政十三頁八月」

施主東都身延御花拵中 永代隔年ニ花立替」

木花蓮華并 大花瓶一对 厨金 天保二卯四月」

施主東都新吉原拵中」

大燭台一对 其繪 文政十三頁七月」

施主江府駒込 高崎屋長右衛門」

盛物台一对 須弥形 会式之御拵ヲ備」

施主当所塩沢村望月周蔵 金七兩二分ナリ」

百味供檀并 白木三方百組 宗祖五百五十遺忌ノ御」

施主万灯室再建奉加ノ内 猪頭主 遠寿院日命聖人」

開帳供養小香炉 本銀并拵櫃敷四ツ附蓋ニツ附」
施主江戸芝口拾七人連名香炉ニ有之」

燭台一对 其繪 文化四年丁卯七月十九日」

施主江戸小網町拵中」

燭台一对 其繪 喜永二乙酉年七月」

施主池上取持拵中」

花瓶一对 其繪 生花用之 文政三庚辰五月日」

施主」

御鑪供養時小香炉 其繪」

施主江戸深川細町田中宇兵衛母」

同台」

施主 取次大栗切」
慶字」

御鑪台」

施主越後国糸魚川八木三郎右衛門」

常灯明灯籠兩基 其繪 台朱漆 文政十三庚辰七月」

施主江戸浅艸大坂屋直助」

同兩基 其繪 台朱漆 文政十三庚辰七月」

施主江戸芝田町二丁目坂本屋隠居弥満女」

常香盤 其繪 台朱漆 味香料 文政十三庚辰七月」

施主江戸浅草馬道東国屋 同裝璜女」

(7オ)

(7ウ)

(6ウ)

(8ウ)

朱塗大常香盤文政十三庚寅初秋

施主三代目中村芝阮仲駒太郎

黒塗大常香盤五百五十寸遠慮ノ御 抹香料金唐兩ツム 天保三辛卯四月 永代毎年納之

施主大坂身延年参擗中

質主、礼盤并香華、台、鑿、同台、御経箱

施主江戸芝河内屋善右衛門金三十兩ノ施主ニ而出来

質首、御経机天保八西七月

施主江戸深川常盤町擗中

御経

妙経(五十部 合音部也 尾州法蓮寺判兎願人妙信尼 表紙 赤紙)

明治六癸酉六月開闢六百年嘉会、砌納之 大教正健

師御代施主卷、每有之御経蓋新造之

外折本二部一老院代座同判ナリ赤地錦表紙、日健

判形 尾州信者中寄附施主名、每卷有之

結衆御経三十六部 同机共表紙料栴檀色巻紙也 机極木香殿座

施主当国教来石駅河西六良平原昌里文政八乙酉十月 五十六世晴助代

吉辰 取次蓮僧房智徳院日受

又次ニ妙経三十六部天保二卯春三月 表紙モロギ納巻紙也 又次ニ妙経三十六部判ニハ、堀ノ内妙法寺ノ藏板也

脇座御経百五拾部 同机共机黒漆 机裏巻紙表紙赤紙也

身延山諸堂記外(北沢)

(9オ)

施主江戸八丁堀擗中 錦、施主姓名法号等 巻毎机毎ニ有之

猩々緋唐縫大水引長京間拾五間 菊紋八ツ 井橋一ツ

施主長崎擗中 天保十五年辰六月

葵御紋附金、纈、水引并御宮殿戸帳

同御紋附紫縮緬幕四張

同御紋附祖師御袈裟 衣并衣服

御施主御本丸大奥リ 為御祈禱納之 嘉永二己酉年七月 奥院祖師江戸深川

於淨心寺ニ開帳ノ御同時ニ納 之六十六代日新節代

大常香盤塔形安政四丁巳七月後節代江戸開帳砌納之 施主住小塚厚十三日擗ニ中

過去帳拾五冊各二百宛 冊毎ニ五十五世日邊判形

施主江戸浅艸藏前相磯勘兵衛文政七甲申年十月日 文政十一戊子年五月

大過去帳三冊各十宛 五十八世日環判形過去帳序文ハ末江配之 踏堂再建立施入之面、志ノ俗名法号可シ記之

大打鳴シ同台并蒲団二枚黒天糸縁 極共

施主江戸芝蓮台擗中 天保十四卯年秋江戸巡説ノ御

大打鳴シ并台 蒲団二枚黒天 嘉永二酉年七月 擗同台共

施主江戸新吉原江戸町一丁目大黒屋金兵衛

常経場小打鳴シ并台

施主江戸大伝馬町御神酒擗中

(9ウ)

(10オ)

身延山諸堂記外（北沢）

開帳場鑿并 台開帳ノ初御堂番鳴也」

調声場鑿并 台其談卷經ノ節本調声ノ七揚也」

一老座、鑿并 台實主ノ代始經之節一老鳴也」

大鼓鑿後シ 開帳之初五ツ鳴也」
文政十三庚寅八月」

施主江戸浅岫新町搦中（マツ）姓名大鼓ニ有之」

半鐘指一尺三寸 開帳ノ初三ツ鳴也之
文政八乙酉十月辰戌五十六世晴願代取次運信房」

施主当国教采石駅河西六郎平昌里」

前机朱塗 巾 施主江戸神田搦中（マツ）喜永三己酉七月納之
明治六癸酉年修復 本願主平井安右衛門藤原信吉法号長壽院清心日悟居士
文久三癸亥七月廿六日六十七歳永代修復為料金五拾兩

(10ウ)

ノ田地附置之此田地替米村」 明治五壬申五月百兩修復料經願代納之
ニアリ小林小太郎ノ世置」 合百五十兩也小林氏領リ田地附置之

木花蓮華并 五具足其論」

施主江戸橋町搦中（マツ）文政十三庚寅七月納之願師代」
明治六癸酉西六月修復之願師代」

七五三御膳惣金四方 六箱江入ル
正徳四甲午七月吉日細工人杉山多右衛門」

願主東谷円信日行大坂屋茂兵衛太田屋与左衛門」

七五三御膳白木三方 長持三俵へ入ル
喜永三己酉七月納師代」

施主江戸桜田窪町七五三搦中」

賽銭箱櫻巻慶座 巾 施主 堀京村祖月周蔵」
金十五兩ナリ

(11オ)

世話方西郡大師邑了泉寺住是逢院日聚聖人 慶応元乙

五十月廿二日八十二歳化」

題目大鼓 并台共 永代盤替可致約束也」
喜永六癸丑年納之

施主江戸浅草新町丸山三右衛門（マツ）御宝殿七面山同時ニ」
同大鼓并 台文化十四五年四月廿八日」

施主緞沢宿两国屋清左衛門」

御宝前盤表」

永代施主備後国盤表搦中（マツ）本願世話人同朝津」
本願喜十郎

御拝所盤表替廿五段」

永代施主西郡西南胡安藤三右衛門（マツ）取次世話人同所」
琳左衛門

菊花天井」

御宝前上菊八ツ 施主江戸花川戸（マツ）常盤校校
金山ノブ女」

同前通り二十四 施主尾州搦中」

左右上四十八 施主（マツ）駿州豆州巡説等ニテ作之」
左須弥 左右三十二」

須弥壇朱塗金具共 天保十五甲辰年塗成就」

施主扇師院代妙信院日法（マツ）上人 慶応二丙寅年正月朔日化
村田妙法寺下谷宗延寺代

金柱塗四本 喜永六癸丑年塗成就」

一施主当国内船村近藤太兵衛（マツ）二十六十兩」原田源右衛門
三十兩四條幸八一本三十兩」

一施主当国内船村近藤太兵衛（マツ）二十六十兩」原田源右衛門
三十兩四條幸八一本三十兩」

(12オ)

(11ウ)

朱塗柱」

行道緣擬宝珠拾四ツ 文政十三庚寅十一月

施主江戸 姓名擬宝珠有之

御拜柱四本ノ金具并上リ壇隅金具等ハ先年」東都ニ

住ス奥州岩城名古曾関隠士深見要言」七面山ノ麓

江唐金ノ鳥居造立有之右鳥居破」壞ニ付此ノ古ル

金ヲ以テ駿州江尻ニ於鑄レ之」

釘隠シ」

施主越中国銘、姓名釘隠ニ有之」

雨落縁石并石橋」

山内中老若大衆加用人等門前新宿」塩沢迄毎日門

經修行ニ而前道リ分作レ之」

御拜、駝石」

施主当国商人中」

御拜所、香炉 鍍金、參詣ノ衆人焼香可レ致、
嘉永二酉七月

施主江戸末広、搦中」

栖神法窟、額者 天保二辛卯年九月攝師代、
額之裏迎下江記ス

水戸從三位中納言齊昭卿御筆」彫刻納レ之 取次江戸納
殿瑞院

弘大願寺住、
日蓮聖人

大幢旛一对并大籠一对大打敷一枚同時ニ納之」

身延山諸堂記外(北沢)

(12ウ)

(13オ)

(13ウ)

施主御本丸御女性方」天保七申年四月八日 世話

人本石町八日、搦中、免願承歴米八」

猩々緋大旛一对 天保十庚申年三月長慶、
中国西国九州巡視之明納之

施主長崎長照寺檀中」

金拾兩祖師永代御膳料 天保十五年辰五月納、
此ノ金子長沢大森檀之助預リ田地ニ敷置

施主当国十日市場河西佐右衛門」

御洗米 糯米、取次同所孫左衛門

永代施主西南胡邑安藤三右衛門」

瓶子并三方共一对」

施主江戸本郷傘谷五代目銅壺屋仁右衛門」

同 一对三方共」

施主江戸本所立川二ツ目搦中」

同 一对三方共 嘉永二己酉七月

施主江戸芝題目搦中」

御鏡一面并台 天保第八丁酉九月日潤判形

施主江戸施入面、家運繁昌」免願人銀座御役所内

社田氏

御供米永代式俵 十三入、当国中部ツイン、
八筑地、
明治二己巳年祥師代、
内藤卯兵衛、
七面山江モ一俵

八斗俵ナリ、永代施主

同永代二俵 但シ一斗、施主当国藤田村五味、
作右衛門、
享保年中、
ロリ永代納

身延山諸堂記外（北沢）

(14ウ)

勸化帳序」

今般「祖師堂再建就勸化信心之施入不_レ限_ニ」多少_ニ此ノ帳面ニ相記シ当酉年ヨリ来ル卯年」祖師御遠忌迄各々連々奉納之心得_ニ而_レ被_レ抽_レ志_ニ候様希者也」

身延_(印か)□

老僧中」

当番中」

諸国諸檀越」

(15オ)

今般「祖師堂御再建御助金并御香奠共此帳面ニ」相記シ当酉年ヨリ来ル卯年 高祖五百五拾御遠」忌迄ニ連々奉納之心得_ニ而各寺御請印形之上」可被抽丹情者也」

身延_(印か)□

老僧中」

文政八年酉三月日

諸国諸末寺中」

当番中」

諸寺院中」

祖師堂再建大本願人ノ掛札 同本願人ノ掛札」

當國村宮川紋藏、 長沢村折居文右衛門、

同石和宿早川半兵衛老、 飯沢宿小河内常右衛門、

(16オ)

同油川村遠藤善兵衛、同 所牧野紋藏、
甲府町名 取作右衛門、天神中条秋山久左衛門、
飯沢宿雨 宮 与 八、結沢村北村彦兵衛、
同 所秋 山 政 七、長沢村齊藤半左衛門、
同 所中 込清左衛門、同上町望月 又吉、
春米村小林小太郎、同 所同苗政左衛門、
同 所土屋安之丞、同狐町樋口勘右衛門、
西南朝村安藤三五右衛門、同 所望月 佐兵衛、
福土村芦 沢 恒 藏、同中町深沢佐次兵衛、
同 所望月五兵衛 同 池上弥市兵衛、
大崩村佐野八良左衛門 同中町望月 佐藏、
当所上町池上重兵衛、同狐町若尾 栄 助、
同上町佐野伊兵衛、同下町鈴木文左衛門、
同狐町阪 上 万 七、同狐町井水治良兵衛、
同狐町葉山十之丞、飯沢宿青柳喜兵衛、
下山宿穂坂喜代平、狐 町佐野長右衛門、
最勝寺村志村好之助、手打沢村塾村彦兵衛、
桃園村相原甚兵衛 是ヨリ明治再建本願人₍₁₂₎
中 町一ノ宮与右衛門、上 町田 中 勘 三、
狐 町坂 上 市 藏 同 遠藤佐左衛門、
同 坂上良之助 中 町古谷善太郎、

(16ウ)

(17オ)

塩 沢望月吉五郎、 同 松木半右衛門」
中 町池上惣右衛門」 同 海沼忠八郎」
巨摩郡土橋慎三」
粟花輪村
(朱字)

南入作箇 祖師堂大過去帳叙」

夫当山者末法万年之大導師高祖大菩薩草創也」自
為三本化上首一開三末法万年宗門本基道場於身延山
矣」尽未來際聖神安居自他兼濟本土也良以荆棘
非三鸞鳳之所巢一小池匪麗竜之淵焉今以三本化
之開闢」偏此土知レ為三靈地」其地勢也四山四方環珠
樹玲瓏」田三繞梵台」依報正報唱三妙法」靈鷲山之貌」
髣髴眼前」四河水 潔」阿耨達池之流浮三天月」吾宗
法水流布之根源宗門興起本基道場而」普天之支流
流三於此」率土之繼田生三於此」矣真靈山」事寂光土也
故高祖曰運レ歩之程無始罪障一時」消滅一度往詣此
道場」者開三成仏於利那」矣况」此靈地収三藏肉身之一
毛分骨一塊」記三留俗名法名命」日」者豈不レ期三現生
成仏」乎今般当山諸堂伽藍」再建立之砌日本國中諸
州一同金銀米錢寸鉄」尺木資費戮力寄附施入之面々
先祖精靈見聞」覚知靈魂俗名法号命日等欲レ簿レ
之」憑レ斯造作」大過去帳三冊」頒三一月三旬」以書三

身延山諸堂記外(北沢)

(18オ)

記之日日会三乎満山」大衆一千余員之淨侶」矣万代
不易之回向謹」修三行之」祈三乎諸靈魂得三菩提」以
擬三乎施恩報」謝」耳抑回向為レ利也譬如下」以水合レ水
以」虚空」」合」虚空」也所以何者夫妙法蓮華經者十
界」心体也万法」主宰而心体弥」綸十方」周三遍三」世」
雖」日月所」不レ照風雨之所」不」至」亦無」不」有」是」
心」此心既然彼心亦然心心互具互融利那」不レ離故回
向」一念遍」明遍」幽通」凡通」聖矣彼此」心心元来一体
不二也故如」以水合」水以」虚空」合」虚空」爾」矣然
者今經廻向豈不」通乎然則諸靈魂」即身成仏何疑之
有耶故知非」成仏之難」」值」此經」難」也得」值」此經」
成仏俯如」拾」塵芥」」矣凡説」誦」此經」資」幽冥」其靈
跡云三」者」如」妙題」才唱」地獄頓」空」經紙既成天堂
忽」現」散」在」衆典」今也耐」枚」舉」焉正知心之」妙用
經之神力不」論」今古」不」分」賢遇」嗚呼」佛哉經王力
用今經不」論」罪多少」但依」三」信心」強弱」而已伏冀永
後代之衆徒」早晚無」懈怠」永勤」之勿」以」忽」
諸回向功德」力者今世」攘」災殃於千里之外」將來
得」法樂於」二」転」之果」如」反」掌」矣今也記三乎」事始

(18ウ)

此心既然後心亦然心心互具互融利那」不レ離故回
向」一念遍」明遍」幽通」凡通」聖矣彼此」心心元来一体
不二也故如」以水合」水以」虚空」合」虚空」爾」矣然
者今經廻向豈不」通乎然則諸靈魂」即身成仏何疑之
有耶故知非」成仏之難」」值」此經」難」也得」值」此經」
成仏俯如」拾」塵芥」」矣凡説」誦」此經」資」幽冥」其靈
跡云三」者」如」妙題」才唱」地獄頓」空」經紙既成天堂
忽」現」散」在」衆典」今也耐」枚」舉」焉正知心之」妙用
經之神力不」論」今古」不」分」賢遇」嗚呼」佛哉經王力
用今經不」論」罪多少」但依」三」信心」強弱」而已伏冀永
後代之衆徒」早晚無」懈怠」永勤」之勿」以」忽」
諸回向功德」力者今世」攘」災殃於千里之外」將來
得」法樂於」二」転」之果」如」反」掌」矣今也記三乎」事始

(19オ)

此心既然後心亦然心心互具互融利那」不レ離故回
向」一念遍」明遍」幽通」凡通」聖矣彼此」心心元来一体
不二也故如」以水合」水以」虚空」合」虚空」爾」矣然
者今經廻向豈不」通乎然則諸靈魂」即身成仏何疑之
有耶故知非」成仏之難」」值」此經」難」也得」值」此經」
成仏俯如」拾」塵芥」」矣凡説」誦」此經」資」幽冥」其靈
跡云三」者」如」妙題」才唱」地獄頓」空」經紙既成天堂
忽」現」散」在」衆典」今也耐」枚」舉」焉正知心之」妙用
經之神力不」論」今古」不」分」賢遇」嗚呼」佛哉經王力
用今經不」論」罪多少」但依」三」信心」強弱」而已伏冀永
後代之衆徒」早晚無」懈怠」永勤」之勿」以」忽」
諸回向功德」力者今世」攘」災殃於千里之外」將來
得」法樂於」二」転」之果」如」反」掌」矣今也記三乎」事始

身延山諸堂記外（北沢）

卒^レ所^レ唱如^レ是若然^ハ当山永代無^キ疆^ク」回向其功德广大
無^レ辺而已矣云爾[」]

皇和文政十一菴集^{戊子}年五月

賜紫身延五十八代

日環 （卷）
身延
山主
環日

大天蓋 三間四方ノ
外ヲラビテ
嘉永二己酉年野州巡視之禰領入
安政三丙辰年成就供發之禰

施主野州栃木信者中板本尊有之

楹師板本尊 当山祖師當大天蓋成就供發于時安政三丙辰歲三月廿八日
祈施主面々現安後尊別而發起世誦人信力増進所願満足者也

野州栃木新田隨喜擗大発願主」慈近日惠 田代善兵衛

齊藤源兵衛 野口磯吉」増田岩吉 片野幸兵衛

大塚長五郎

奥州白川信方^{（一）}大竹重三郎 三国秀吉 内山金兵衛 内

山久藏」安田六助 清野伝兵衛 尾崎徳兵衛」

奥州須加川要^{（二）}渡辺伝之助 丸井常吉 渡辺寅藏」

同裏書」

祖師堂大天蓋發起本願主
并普勧奉行

常不礙院 智順院日逗聖人 大工棟梁
池上伊織宗治
当所中町

甘請方 東都住人
師万七

戒尊^{（三）}智逗院日味 東都住人
浅井庄兵衛

以上」

栖^{（四）}神法窟額裏書皇徳院日華^{（五）}紙」

今茲天保二年 辛卯冬十月十三日正当吾」

高祖大菩薩五百五十回之諱辰諸山諸寺之僧徒各々
募縁無修法会不擬報恩也於」此乎小比丘日華欲奉納

大額於身延山」祖師堂前報鴻恩万一回恭聞吾水戸上

公」乞揮仙臺公許之八月十四日書栖神法窟」之四大

字賜之其紙中也横一丈有八尺堅七」尺其四縁増一尺

其色也朱黒金以彩之」文字亦以金塗之地則素木也令

工林藏」作之其彫刻也則余与伊東丈信篠氏兄」弟岸

氏同刻之又永井介用幹事之令」漆工池松塗之本月五

日始其夏九月十日」落成焉翌十一日入之於小石川富

士見御殿」之正寢以皇峯寿院大夫人公主峯姫君」上

公及天人登美姫宮之尊覽而上公雄」賞謂余日卒業之

速而且夫啻彫刻」美乎兩日行裝已調十四日発江戸十

九日」到身延山廿日掛於大堂之向拜誦経唱」題專祈

一天四海皆婦妙法未法万年」広宜流布仰翼上公宝筭

長久御子」孫繁榮臣僧日華大願成就就本山永昌」檀林

繁茂能所之僧侶自行化他具足」円満者也」

法華三味檀林能所生入費東都駒籠」雜声窸十行山大
乘寺兼水戸靖定」僧録司靈端日華識以上裏書」

(20オ)

(19ウ)

(21ウ)

(21オ)

(20ウ)

(22オ)

右額之寫本戸公ノ寺社方ヨリ同合ニフキ其母存シ送之時文久三年

壬戌三月上旬藏師代院代智心院當番智院院出府先ヨリ申來ルナリ

欄間六一枚 (慶応三丁卯年春 祥師御代 本堂同時出来)

朱柱塗地并 大格子黒塗地 隆師代 塗師甲府住人 新七

施主西京信者、面々、發起本願主西京靈應院村
石田音吉

〔註〕

- (1) 一ノナミ、三ノニハ朱字
- (2) 主水ハ朱字
- (3) 舍人ハ朱字
- (4) 図書ハ朱字
- (5) 頼母ハ朱字
- (6) この一項は欄外上部にあり。
- (7) 七条ナリ
- (8) 施入面々志ノ靈過去帳二冊アリハ頭註
- (9) 「明治五」より「附置之」は脚註である。
- (10) 「施主」を「世話方」と訂正。
- (11) 下ノ印、掛札有之之印也ハ頭註・朱字
- (12) 「是ヨリ」より「本願人」は朱字である。

(31オ)

本堂十三間四方各一丈宛

身延山諸堂記外(北沢)

前ノ本堂考文政七年八月廿七日回祿ス〔一〕

第六十一世日心師代再建企之 心師板本尊

天保十一庚子 正月十三日本堂再建斧初之御日心判形

第六十六世日新師代本堂上棟 新師棟札

嘉永三庚戌 十月十一日柱立同四 辛亥 十一月十日吉辰
上棟日新判形 同裏書

六十一世日心尊師 天保十一庚子正月
十三日再建斧初

時之院代 本尊院日願聖人 嘉永五壬子十一月廿八日七十九歳

時之院代 慈慶院日願聖人 天保十二辛丑九月廿四日

六十二世日扇尊師 天保十四癸卯二月
十六日地形初

(31ウ)

六十三世日關尊師
時之院代 本尊院日光聖人 天保十五甲辰七月廿一日

時之院代 本尊院日祝聖人 安政一乙卯九月廿六日

六十四世日仲尊師
時之院代 領門院日祝聖人 安政三丙辰四月十五日六十四歳

時之院代 妙守院日祝聖人 明治五壬申九月廿三日

六十五世日桂尊師
時之院代 一真院日治聖人 明治十三庚辰八月三十日八十四歳

(上段)

一老潮心院日陽聖人 安政六己未四月十一日

院代妙信院日法聖人 慶應元乙丑十二月廿九日六十九歳化
勸賜植律師 彰下改

三老太善院日棟聖人 嘉永六癸丑三月十八日五十七歳化

四老太善院日大聖人 明治十五壬午三月廿六日八十一歳

中頭潮門院日遊聖人 明治七年戊辰四月廿七日六十七歳化
智文院下改

身延山諸堂記外（北沢）

当番全中院日惠聖人 元治元甲子五月五日六十二歳

同 太秀院日忠聖人 安政二乙卯二月十一日四十五歳

当番妙覚院日誠聖人 安政六己未十月十五日四十五歳

同 是感院日行聖人 明治二己巳四月朔日五十三歳

同 顯正院日光聖人 明治四辛未七月十七日

同 音中院日願聖人 明治八乙亥二月廿一日七十三歳

同 智順院日逗聖人

同 妙俊院日寿聖人 勅賜權律師

普請奉行

本徳坊五世 太彦院日等聖人 安政三丙辰五月廿一日五十一歳

時五 老 太彦院日等聖人 安政三丙辰五月廿一日五十一歳

山本別当二世 頭要中院日顯聖人 明治十丁丑二月廿三日七十歳

大 當 番 房英中院日孔聖人 嘉永四辛亥四月三十日三十一歳

同 房鑑乘院日逢聖人 安政二乙卯九月五日三十七歳

普請方 妙音 房了乘院日惠 嘉永七甲寅正月十三日三十五歳

円台房廿七世 妙定院日翁 文久三癸亥五月十四日四十三歳

会所結世話人

春米村小林小太郎喜五 尊徳院了智日惠 文久三癸亥十一月十六日六十八歳

針山村市川三右衛門

(31ウ下段)(32才上段)

(32ウ)

上当上町池上重兵衛守一 一字庵庵垣目 幕借士六十歳 明治五壬申十一月十一日六十歳去

同 所佐野伊兵衛

狐 町阪上万七 開法院尉 幕借士 安政二乙卯十月廿七日

同 葉山十之亟臣 眞日如 幕借士 明治九丙子六月二日七十四歳

同 望月善左衛門 興相院法真日如 幕借士 明治四辛未四月二十六日八十四歳

小田村志村太兵衛 本理院法性日如 幕借士 明治五壬申十月廿六日去

大工棟梁 檜皮家根師

当中町池上圖書宗員 中 町小倉久右衛門

上町池上内匠文諦 下 町佐野恒兵衛

中町池上伊織宗治 瓦師

下町池上頼母宗武 伊沼村望月平八

彫工 杉木挽頭

東 都和泉小三郎 中 町池上徳之助

大工肝煎 下 町佐野友蔵

中 町望月藤左衛門 左官

下 町池上定右衛門 下山村遠藤常八郎

同 望月幸左衛門 建方

上 町川口彦次郎 下新町高井善次郎

中 町遠藤儀右衛門 下 町柿島太吉

同 吉野勝兵衛 地形

(33才)

(33ウ)

同 深沢 佐平治 妙法堂世話人中
 上新町 佐野 平次郎 手打沢村深沢 儀右衛門
 上 町望月祐右衛門 栢根村久保田藏右衛門
 同 池上 兵藏 榊原村早川 德之丞
 狐 町樋口勘右衛門 普請方下役
 片隈町 小倉 源八 梅平村武田 要兵衛
 下新町 芦川 彦三郎 相又村千頭和惣兵衛
 中 町望月 幸二郎 以上棟札裏書

(34オ)

嘉永五年 手 七月七日 本堂開堂供養并「諸尊御遷座
 入仏供養 六十六世薪師代」
 宝塔兩仏四天王無辺行ササ安立行ササノ像」
 施主当国青柳村中」
 参願主 同村日福寺開居遠寿院日命聖人嘉永五壬子年七月廿五日化」
 天保二 辛卯年十月 五十八世日環師開光」
 京都大仏師法橋林如水作之」
 上行浄行菩薩像
 施主大坂年参解中世話人京都御園屋弥兵衛、大阪屋利三部、
 伊丹屋惣兵衛、同平兵衛、大島屋徳
 七
 嘉永七 甲寅年 六十六世日薪師開光」
 文殊師利普賢菩薩像」
 身延山諸堂記外(北沢)

(34ウ)

施主大坂年参両講中」
 安政四 丁巳年正月 六十七世日楹師開光」
 宝塔兩仏金子五百両
 四ツツ四天王文殊普賢捨鉢金子五百両 合而一千両寄進也」
 今上皇帝宝祚万々歳
 征夷將軍御武運長久 位牌両基」
 嘉永五 壬子年七月吉辰 六十六世日薪師筆」
 施主再建会所結合中」

(35オ)

御拜所天井ノ竜ノ画并後門張附獅子ノ画者」
 甲府玉亨等朝ノ筆」
 後門竜虎羅漢ノ画者」
 京都野永立借ノ門人永林僧契
 嘉永七甲寅四月参詣登山ニテ画之寄進」
 天蓋嘉永六癸丑四月 仏工京都電敷」
 施主野州宇都宮崎尾新右衛門金五拾両寄附」
 貫首礼盤并御経日御形 同机 箱 鑿 同台 棒」過
 去帳日御形 同台嘉永六癸丑三月」
 施主江戸巢鴨町石場文右衛門」
 花天井 為手伝金子百両嘉永五壬子年寄附有之」
 施主江戸南茅場町鴻池儀兵衛」
 須弥壇一式」
 施主当国西河内福土邑真篠望月五兵衛法号真府院法殿
 安政六己未二月

身延山諸堂記外(北沢)

日蓮居士
八月去七十七歳

行道椽擬宝珠拾四并金具

施主江戸谷中三河屋斎藤権右衛門

嘉永二己酉年秋 世話并取次谷中妙行寺
管行院日研上人

釘隠シ

施主越中国

打鳴シ同台蒲团二枚棒共 嘉永二己酉七月

施主江戸深川一乘擗中

金灯笼一对 文化四丁卯七月

施主两国東西擗中

常香盤

燭台一对 真跡 文化八辛未九月

施主江戸深川浄心寺擗中

花瓶一对 真跡 文政十三庚寅十月十三日

施主渋谷大奥

造り花永代開年二建替

施主江戸身延御花擗中

花瓶一对 施物ナリ
生花ニ用シ之

施主備前国御野郡上伊福村中
瓶子并三方共 一对文政十三庚寅七月

(35ウ)

(36オ)

(36ウ)

施主江戸芝口擗中ノ内 同 江島屋茂兵衛
茂右衛門

過去帳全冊 日新 判形 同台

是本堂再建立大小寄附施入奉加ノ面ノ先祖繪塑
見聞覚知志願現俗名法号配之前三回ノ者也

本堂前金灯笼二基六十七世楹師代

施主泉州堺中村富十良 宿取次 東谷 山本房
永代為油料金

子拾五両納之 喜永七甲寅十月寅日納工東都大門通銅屋元次郎

欄間 四 枚 慶応三年春本堂修成就金百両奉納ナリ
大ミスクミ 詳師御代 施主泉州山形佐々木甚蔵同母

本堂再建大本願人ノ掛札 同本願人ノ掛札

借州松代 蓮栗寺 慈性院日明聖人 当 同 田島村大森 作右衛門

同 寺 題目擗中 飛起人 妙常尼 越前内房 遠藤 源兵衛

奥 州 長谷川 饒左衛門 松前城下 安部屋 喜兵衛

同 春米村 小林 小太郎 同 所吉田三郎 右衛門

同 大島村 片田 伝三郎 同 小田船原 志村 太兵衛

同 篤宿村 宮川 紋藏 同 所松田 饒兵衛

同 福土村 望月 五兵衛 同 福土村内田 新之丞

同 西郡北組 大題目擗中 初鹿島村 望月 喜兵衛

同 当所狐町 望月 善左衛門 針又村 市川 三右衛門

(37ウ)

(38オ)

〔註〕

- (1) 一ノ十一「朱字」
- (2) 名体院宗用日教僧土〔頭註〕
- (3) 万延元使申箇三月廿七日七十一歳〔頭註〕
編行院要道日母僧土
- (4) 明治七年九月九日八十一歳
福聚院内海日最僧土
- (5) 「儀右衛門」を「儀兵衛」と訂正。

(44才)

位牌堂拾貳間五尺二寸四方
 前ノ位牌堂者文政七甲申八月廿七日回祿(一)」
 本柱三十九本 一尺八寸九角
 向押柱貳本 一尺六寸角
 椽柱三十二本 一尺一寸角

丈六釈尊座像六十六世日薪開光」
 発願人当山上ノ山鬼子母神堂前ノ別当 法達院日久法師弘化五戊
 申二月四日化ス」

施主者当国権銀村正行寺十六世開磨
 大僧都 不退院日住上人万延元庚申
 九月廿一日化六十八」

弘化五戊申 四月九日御開眼千部執行勤之」

同別 当春 教 日 恵」
 東都大仏師奥村雲開作之」

過去帳十五冊各二百宛同合愚塗」

施主江戸本所御島法性寺廿一代貫華日香」

天保十二辛丑年二月 六十一世心師代
 発願主時之院代慈隆院日發願人」

貫首、礼盤」

身延山諸堂記外(北沢)

(45才)

同御経机御案ニ菊ノ紋
 文政十三庚寅十月吉日 工人塗 師与四郎」
 同御経箱寄附主奥州今市遠藤嘉右衛門」

同鑿并 台施主不知」
 大打鳴シ并 台文政十三庚寅七月孫師代
 大施主江戸 名前打鳴シニ有之」

金灯籠一对 文化四丁卯七月(一)中
 施主江戸两国西東傳中」

燭台一对 施主開運要品傳中」

造花一对 永代開年ニ立替
 施主江戸身延御花傳中」

前机」

常香盤文政三辰年八月吉日
 施主領地求馬大願成就」

幢旛一对 嘉永五壬子四月 婆達尼」

三堂之内釈迦堂再建加入勧信牒、序」

抑甲斐国身延山久遠寺ハ其の靈鷲山事の寂」光土に
 して高祖日蓮大菩薩尽未来際まで」御魂を留まし
 すと云 乃至ならず一度参詣の輩」ハ無始の罪障を
 消滅すと遊され御遺言にも」日蓮が弟子檀那として
 ハ身延山を一宗の本山と」崇び志を運べし身延山を
 疎略に心得人々ハ」日蓮が弟子にはあらずとの玉ふ
 依レ之五百年來」日本国中の崇敬信仰の志しあつて
 法灯日に」輝を増の靈場也爰に当山三堂の内万善」
 宝殿ハ教主釈迦尊を奉、安置、左右に日本」國中諸檀

(45ウ)

(46才)

越精靈の位牌を起立し毎日「日月杯の靈供を備て誦誦回向の所在なり」右釈迦堂大破に及び今般再建を企不^レ断香華灯明をさ^レげ誦誦唱題報恩謝^レ徳の修行をなさん事を発願す仍て信力の「諸檀越に告しらしめ多少によらず是^レが施入^レたらん事を乞のミ」高祖大菩薩の恩山の一塵に報徳海の一滴を「謝し奉らせ現当二世の大願を成就せしめ」むと欲すよつて勸進の意趣しかり

安政五年 戊午 歳春

身延当番

〔註〕

(1) 一ノ十五へ朱字

仮位牌堂再建^{三三間}四方

文政七年 甲申 年九月成就^{六月千部ノ元金二百兩用之}五十五

世導師棟札有之

初ハ祖師堂ノ仮堂トシテ再建文政七年申年ヨリ天保二年辛卯四月二日迄

八ヶ年之間祖師假堂也今ノ本堂ノ地ニ再建ス

次ニ本堂ノ仮堂トスル天保二年辛卯四月二日祖堂再建成就^{遷座ノ後本堂也}天保六年今ノ位牌堂ノ地ニ引移シテ地ヲアケテ本堂企ル^{嘉永五壬子七月七日日本堂成就遷座也二十二年之間一仮本堂也}

亦次ニ位牌堂ノ仮堂トスル嘉永五壬子年本堂階層遷座^{シテ其跡同年七月ヨリ}

家根更^{楠板} 天保十三壬寅年十二月企之^{同十四癸卯年九月成就}

(47才)

六十二世扇師代院代妙信院日法聖人丹情也^{入用金百廿五兩二朱ト六十五文也葺替入用}集金百廿六兩也残り金三歩ト七百三十七文^{右勘定帳有之當町葺師小倉兩右衛門}

家根更^{楠板} 明治四年辛未年秋扇師代遺金企之^{同五年壬申十二月隨師代成就ス}

板本尊^{イタ} 長九寸七分大教正^{山日健判形}

当山釈迦堂假殿柿板葺宝形屋根更成就^砌施入之面

々現当二世安樂祈者也維時明治五^{壬申}十二月吉辰奉図之為安泰守護之本尊也

(47ウ)

同裏番ニ当山三堂之内釈迦堂假殿家根葺更者^{明治四年辛未年九月七十一世日禪師代始之}時院代^{四谷正法院}智順院日逗聖人時普請方^{山之坊廿五}世寛智院日伸玉泉坊三十三世要義日理^{明治五^{壬申}年十二月吉辰葺更成就}

時院代^{東京府山體遊院士二世}仙師^東山體遊院日珠聖人時當番役^{妙俊院}日寿鏡閣院日賀顯妙院日修顯隆院日勢^詮寿院日周

事遠院日甲普請方玉泉房三十三世^{俊光院日理南延}房二十二世事明院日三大工棟梁^{池上伊織宗治家根}師池上平兵衛佐桵恒兵衛^{柿木挽望月忠兵衛左官湯}平村伝十郎日雇頭^{石藉勘兵衛作十郎源助}以上裏

(48才)

書也」

世話人下田原村若林重左衛門」

柿板屋根入費醫師代金」

行道椽下石積但シ三方」

堂内壁塗替但シ中塗迄」

東ヨリカケ上リノ渡リ廊下新規建替」

祖師御飯堂文政七甲申年十月上八日檜板也」

飯堂棟札巾二尺一寸七分 賜幣当山日違在判」

同裏書 当番普請奉行海寿院日量聖人」本教院日東

聖人海運院日端聖人時普請方」法雲房端場坊常栄坊

松林坊大工棟梁池上」主計致昆池上織衛玄明檜皮師

小倉兩右衛門栄行」仕手当町諸職人以上裏書」

(48ウ)

〔註〕

(1) 右飯堂本堂ノ地ヨリ今位牌堂ノ地江建地其儘ニテ

引入ル六十世潤師代夫ヨリ本堂ヲ企ルハ頭註」

(2) 三十年メフキ更ナリハ朱字」

〔1〕十三間 廊門左 各五間 寛永十九年六月十二日成就供養」

〔2〕元トノ三門ハ慶応元年乙丑十二月十四日辰仙台崩リ」

出火類焼失ニ王像ハ安泰十六願深像ハ焼失ナリ

身延山諸堂記外 (北沢)

慶応二丙寅年八月七日ニ王尊飯門成就上棟禮畢之御納之安泰守障
之棟札七十世日辨判紙

同裏書ニ」

時院代 妙衣院日忍聖人 本願村人小林八右衛門

普請方 是感院日行聖人 落合村新津 又兵衛

同 妙俊院日寿聖人 同 村新津唯右衛門

同 執亦 顯立院日勢聖人 同 村々世話人中

時別 当智観院日透聖人 町話 方池上 重兵衛

普請方 詮寿院日周 同 佐野金左衛門

智宣院日彰 同 苗半兵衛

事遠院日甲 同 葉山十之亟

寛智院日伸 同 樋口勘右衛門

勅明院日染 同 望月善左衛門

大工棟梁 同 坂上万七

池上伊織宗治 同 佐野豊之亟

池上主税玄吉 同 柳川村依田伊右衛門

小倉源八郎常延」

〔50オ下段〕

(上・中段)

(50ウ上・中段)

(50オ)

身延山諸堂記外（北沢）

家根屋池 上平兵衛

佐野 恒兵衛

杣木 望月 忠兵衛 游舟 觀靜 日忠 信士

深 沢 半七郎 深心 法持 日觀 信士

池上 惣右衛門

建 方 勘 兵 衛

日風 彌 兵 衛

以上棟札

(50ウ下段)

(51オ)

三門新築ノ時二十六世日通上人勸募ノ記

誠下特被三道德貴賤助力一令於三延峯一新建中立三

門上之状

夫身延山久遠寺者本化垂化之地衆聖降臨之境也茲

祖曰彼月氏靈鷲山本朝此身延峯也望此砌聳無始

罪障忽滅皈三業惡成三德等云云 当今此寺堂

舍鐘樓皆悉具足其所無者唯三門而已凡三門者祇

有二門一亦呼為三門者此即所以表三解脱也

大論云涅槃城有三門謂空無相無作大師云此三

通名三解脱門一者解脱即是涅槃門謂能通此三法能

(51ウ)

(52オ)

通三行者得入涅槃一故名三解脱門一也又曰觀三諸

法無我我所一故空諸法從三因緣和合生無有自作

者無一有受者能如是通達者是名三空解脱門一

觀男女相一異等相一是相中求其實皆不可得能如是

通達者是名三無相解脱門一若一切法無相知即

都無所作一若於法一有三所得者即於三界而有願

求因是造作三有之業令一切相皆不可得故

則於三界一無願所願求一不造一切三有一生死業一

無業故無報是為三無作解脱門一經云三空解脱門

正念為三防守四道一為三正路遊之出三界一金文

允矣可信一可歸如如是稱善散三在具業不超過

備一出者也然此門建立之望歷代之諸師所強

志覃思也余亦志念此與隆米年尚矣若乃案

其營弁之功曾非自力之所堪而恐慮多功一欲

抑止此情一空自利一利人之德一如之何進退惟

谷聞經下有為大山二者覆一篋一以不止及三方似

又有下赴長途二者投一履步一以不留必屈三千里

(52ウ)

(53オ)

焉其積功累德致誠專心者無事不成就無
願不遂一肆將欲下藉衆力一半錢所施一粒所
捨漸く合レ力微く成レ功非造立三空解脱門以為
道場之莊嚴報中仏祖大恩上仰願常住三宝増益我
願二助成一我願二重乞華夷遠近縑素尊卑扶疏同志
之人同浴ニ仏海之無辺須保壽木之不老乃至
自他俱安同歸ニ常寂愚舟所思啓白如斯諸君勉
焉

寛永十七年庚辰歲次

正月如意珠日

二十六代日蓮判形

寛永十九年壬午六月十二日三門成就供養也
三門ハ二年六月ニ成弁

三門前石宝塔 惣丈四間三尺由三寸五分

開山日蓮大菩薩 発起奥州白石付徒中

御首題当山日鑑判形 惣入費金貳千五百円

六百遠忌報恩塔

明治十四年十月十三日 明治十五年七月三十日落成

〔註〕

(1) 一ノ四ハ脚註・朱字

(2) 明治廿年三月四日旧二月十日午后二時中町蛭子屋ヨ

身延山諸堂記外(北沢)

(54オ)

リ出火焼失ハ頭註

二天門八間半

前ノ二天門者三堂同時ニ焼失(一)

再建立施入帳叙

法華經云我亦自當擁護持是經者上令三百由旬内
無諸衰患亦以陀羅尼神呪擁護持法華經者上
トアリテ靈山会上ニシテ持国毘沙門ノ二天何レモ未
法ノ今時ノ本化道場殊ニ一乘ノ行者ヲ昼夜ニ守護シ
其ノ一病痾ヲ治シ怨敵ヲ退ケ罪垢ヲ滅シ法ヲ護シ人
ヲセント釈尊ノ御前ニ誓セヌ爰ヲ以テ吾朝往昔ノ
聖帝ハ四天ノ像ヲ造リシハ専ラ是ヲ尊信シ中古ノ
高僧ハ盛ニ二天ヲ請シテ山門ニ奉安セリ是則慈悲
深重護世ノ天王ナレバナリ抑モ当山ハ即チ天竺ノ
靈山ナリト高祖大土モ自ラ夸耀シ玉ヒ九箇年ノ間
ヤスト法華經ヲ講讀誦誦ノ靈窟ナレバ堂塔堯
ヲ並ハ二天ノ高閣亦タ有レトイヘトモ文政ノ火災
ニ一時ニ焼亡セリ宗門ノ徒誰カ是ヲ悲歎セザラン
ヤ然ニ今般東都信者ノ輩ヲ志シテ同シ力ヲ合セテ
再ヒ二天ノ門ヲ造営シ奉リ遠ハ仏恩ヲ報シ近クハ信

身延山諸堂記外（北沢）

(55才)

心ノ老少男女ニ「ソノ利益ヲ蒙ラシメ俱ニ仏慧ヲ期
セシコトヲ発起セリ善哉」真実ノ念願感賞スルニ余
リアリ定メテ仏天ノ冥慮ニ「叶ヒ現世安穩後生善処
疑ヒナカルヘシ若シ其ノ伽藍」造営ノ功德広大成ル
事経論ノ中ニ詳カナリ豈信ゼ」ザルベケン哉

身延山

嘉永二年己酉九月

役僧○（印か）

第六十六世新師代再建立施主ハ江戸惣搦中」

新師板本尊有レ之嘉永六癸丑年三月十一日」柱立同

年十二月再建成就 同裏書ニ」

時院代妙信院日法聖人 施主江戸惣搦中」

本行房是感院日行聖人 駒込搦中」

妙仙房太彦院日等聖人 小泉百助
小松屋利助」

大進房英中院日孔聖人 伝馬町搦中」

新師隨身頭正院日光聖人 京屋源右衛門
三河屋齊右衛門」

南之房智順院日逗聖人 東神田搦中」

清水房鑑乘院日逢聖人 馬喰町搦中」

新師隨身妙衣院日忍聖人 新吉原水引搦中」

戒善房妙俊院日寿聖人 小石川搦中」

普請奉行 本郷搦中」

(56才)

智報院日は 身延最初赤坂搦中」
了乘院日惠 芝搦中」
妙定院日翁 江戸末広搦中」
頭智院日勢 各拾搦世話人」
世話人 柏木挽頭」

春米村小林小太郎 池上徳之助」

同 同悴八右衛門 佐野友藏」

刑沢村市川文藏 遠藤喜頼藏」

西南村安藤三五右衛門 石工望月幸八」

当狐可葉山十之亟 建方」

大工棟梁 高井善次郎」

池上図書宗員 柿島太吉」

池上内匠玄諦 地形」

池上伊織宗治 妙法堂」

池上頼母宗武 世話人中」

江工棟梁 戸和泉小三郎 普請方下役」

家根屋小倉久右衛門 梅平村武田要兵衛」

瓦師望月作兵衛 相支村千頭和惣兵衛」

伊沼村望月作兵衛 以上棟札」

(56ウ)

(57才)

持国毘沙門二天ノ像六十一世日心開光（中）心師ノ御（板札有之）

施主江戸芝中門前中村屋平兵衛同母幾女（法智光院妙号嘉永六癸卯日行僧女）

丑正月廿二日去七十四歳」天保十己亥年六月吉辰 仏師成田東

運使風作」

二天象書写妙経卷一部宛（大塚氏因縁）此兩人之書写ナリ」
中ニ書写妙経卷納附之（秋山氏女繪川）

天井竜ノ画者」

奉寄附東都狩野永應立信ノ門人永林信実」嘉永七

甲寅年四月上旬登山ニ而画レ之奉ニ寄進」

擬宝珠并金具一式」施主江戸小石川搦中」

金網四枚 施主

鰐口一ツ 施主（江戸巢鴨町石場文右衛門安政四丁巳年秋古仏堂祖師開帳ノ刻檀師御代）

同 一ツ 施主（江戸巢鴨搦中）

久遠寺額者（表）ニ從四位下前侍從間部下總守藤原詮勝（アキカツ）

書」額之施主江戸日本橋十三日搦中（文久三癸亥八月興院祖師江戸開帳之御納）

六十九世」
孫師御代」

釈迦尊文殊普賢五百羅漢并眷屬共」六十九世 琢師御開

光 彫工高橋尚古斉鳳雲ノ作木彫ナリ」

施主（江戸浅草）伊勢屋太田加右衛門壽寂發起彫刻」之

施主也從文政年中末至安政始成就矣」

身延山諸堂記外（北沢）

(58オ)

(57ウ)

法号永蒼覚了一如居士（文久三癸亥九月五日去）加右衛門（コト）

施主江戸兩國村松町河辺惣次郎藤原盛善」

同 同下谷 河辺武八郎藤原宗親」

同 江戸浅草旅籠町伊勢屋市郎右衛門」

右（文久三癸亥）興院祖師江戸開帳之御納之琢師御代」
右九月

六十九世琢師板本尊共一尺五分奉鎮座五百大阿羅漢之像」

皇和元治元太歳（甲子）年六月十八日若人為仏故○皆已成仏道」

同裏書ニ当山白毫楼安置五百大阿羅漢遷座之御納

之」

仏像世話方

發起彫刻之施主」

江戸谷中 瑞輪寺妙音院日声聖人 伊勢屋加右衛門壽寂」

相州鎌倉 智境院日進聖人 施主河辺惣次郎盛善」

安国寺 潮松院日愈 同 同苗武八郎宗親」

時之院代 本行房是感院日行 同 伊勢屋市郎右衛門」

志摩坊 妙俊院日寿 世話方」

松井坊 鏡閣院日賀 設所増 田力藏」

福沢坊 智章院日鑑 同 同所池上伊織宗治」

鹿 房頭妙院日修」

大林 房鏡円院日勤」

(59オ)

(58ウ)

身延山諸堂記外（北沢）

普請世話方」

至日房智文院日遊」

妙仙房要中院日顯」

上妙坊智順院日逗」

蓮之坊智運院日顯」

琢師棟札巾一尺五寸三分
長三尺三寸三分

当山二天門再建成就」

維持元治元年甲子年六月十七日上棟」同十八日二天尊

遷座安泰守護之」棟札也再建施主東都惣搆（マツ）中登山」

同²ウラサニ

当山一老太善院日大聖人 普請奉行」

院代潮松院日逾」

三老智文院日遊」

四老音中院日顯」

五老要中院日顯」

中頭智妙院日弘」

当番是感院日行」

智順院日逗」

妙俊院日壽」

智運院日顯」

以上板札裏書」

妙普坊智山院日登」

林殿坊詮寿院日周」

清水坊事遠院日甲」

再建世話人」

香米村小林八右衛門喜社」

当所狐町葉山十之亟（シヤトキ）臣（シヤトキ）農」

大工棟梁池上伊織宗治」

池上主税玄吉」

(60才)

(59ウ)

(61才)

(60ウ)

鏡閣院日賀

智觀院日透

智章院日鑑

鏡音院日隨

頭妙院日修

鏡門院日勅

身延最初赤坂搆（マツ）中

駒込搆（マツ）中

伝馬町搆（マツ）中

本郷搆（マツ）中

馬喰町搆（マツ）中

小石川搆（マツ）中

東神田搆（マツ）中

芝蓮台搆（マツ）中

江戸末広搆（マツ）中

新吉原水引搆（マツ）中

各拾搆（マツ）元方世話人」

小倉源八郎常延」

家根屋池上平兵衛」

佐野恒兵衛」

仙木挽池上徳之助」

遠藤喜瀬蔵」

望月忠兵衛」

大塚屋久次郎 慶応元年五月廿五日
運乘院榮心日替借士

其実院初頭功由日替借士
文久三壬戌八月十八日七十六歳

京屋源右衛門 三河屋源右衛門」

兼康祐悦 蓮種院法樹日良借士 慶応二丙寅七月十

二日」

江戸屋錦五郎」

屋敷屋卯兵衛」

建具屋助蔵」

上總屋平次郎 松寿院長遠日榮借士 明治三庚

午六月二日」

大和屋文蔵」

地形丹精 妙法藏世話人中

以上棟札裏書

〔註〕

(1) 一ノ十(朱字)

(2) 欄外上部にあり。

(3) 宝徳院延暦日誌
明治十七年十二月廿三日六十歳去

(4) 一興院道源日傳
明治九丙子六月二日七十四歳

(5) 信明院常延日巧

(6) 体心法喜日悦

(7) 清野観静日忠

円師堂三間半 各椽三尺五寸宛

(63才)

第六十一世日心師代再建成就天保十二辛丑九月
成院棟札日心判形

一式ノ施主者江戸浅艸藏前坂倉屋酒井清兵衛

前ノ円師堂建立ノ御酒井清兵衛松屋四郎兵衛金子百内寄附
右ノ由緒ヲ述テ勉メ同家先祖累代之位牌此ノ堂ニ納メ之ニ 大工棟梁池
上舎人玄宣

前机

貫主ノ礼盤

同御経并机

鑿并台

身延山踏堂記外(北沢)

過去帳 同台

御経并机円師前巻籠也

波木井影堂ノ額者本戸宰相人本堂下天保年中修復心師代

六十八世実師板本尊

当山大檀越法寂院日円聖人之影堂嘉永七甲寅年十

一月四日大地震而破壊故今般地形固修補之者也

維時万延元年庚申十月穀旦為安泰守護一凶而以納置

之者也

同裏書

院 代戒修院日確

亦是感院日行

妙俊院日寿

妙定院日翁

池上伊織宗治

池上主税玄吉

小倉源八常延

仕事師駿州蒲原宿和泉屋平次郎

以上裏書

昔訪方南向日禎

武井房日観

戒善坊日周

常住坊日甚

棟木梁池上徳之助政純

佐野友藏

遠藤喜瀬藏

地盤損ニ付再建主ノ縁ヲ以テ額之金貳拾三丙ニ朱ト三匁五分五厘
万延元庚申十二月奉納東徳藏前坂倉屋酒井兵衛

(64才)

(63ウ)

(64才)

身延山諸堂記外(北沢)

〔註〕

(一) 一ノ廿(朱字)

二重宝塔三間一尺

前ノ重ノ塔ハ二重同時ニ焼失シ

第六十一世日心師代再建企レ之

六十二世日扇師代「地形并立柱

六十三世日闍師代家根造作

六十四代「仲師代九輪作レ之

六十七世楳師代彫物并造作」須弥并塗銅瓦屋根成就

御本丸大奥ヨリ金二百兩下ル楳師代

御施主者御本丸二之丸御住居」

本輪院妙珠日真大塔 嘉永三庚戌年三月十二日去

本輪院」

水野」

奥津」

經定院」

征夷大將軍家齊公天保十二年辛丑閏正月三十日卒六十九歳「文恭院殿正一

位大相国公尊儀御菩提ノ」為メニ御内々御造立也塔

ノ下ニ石ノ室有レ之銅金ノ」包箱裡テ有リ御本丸ヨリ封シ下ル伝ヘ聞ク」文恭院殿ノ御爪髮歟」

(67才)

宝塔兩仏六十六世日新開光

施主者江戸日本橋十三日搦中」

五具足 七五三御膳」

嘉永二己酉年七月同時納之」

施主ノ面々祈禱回向ノ位牌兩基有レ之」

安政六己未年 踏躰御遷座東師御代

六十一世日心師棟札」

(67ウ)

六十二世日扇師棟札」

六十三世日闍師棟札」

二重宝塔再建 天保十五甲辰 弘化十一月如意吉祥日」

御施主御心願満足丹情世話々信力増進一切無障礙

祈者也」

裏書無之」

六十四世日仲師棟札」

二重塔九輪成就之処」

皆弘化第三丙午 竜集十月吉祥日」

同裏書

天保十二年新立」

心尊師代

院代慈照院 普請奉行

國沢坊海足 光積坊厚旭 定林坊慈教

(68才)

(68ウ)

天保十四卯年地引下之重立」
 願導師代 院代妙信院 奉行（岩房太持院）
（定林坊慈教）
 弘化元辰年上之重築根成」
 闍導師代 院代本教院 奉行（光禎坊顯齊）
（定林坊慈教）
 九輪成院」
 仲導師代 院代妙守院 奉行（林藏坊快普）
（龍之河原寺）
 御施主 一」
 取次滝尾御女性 大工棟梁池上内匠玄藏

(69才)

世話人村山民部 以上ウラ書仲師棟札有之」
 六十七世日楹師棟札」
 当山二重塔銅瓦屋根并惣造作令周備者也」
 維時安政五戊午年十月十三日吉辰」

(70才)

〔註〕
 (1) 一ノ十六 〔朱字〕
 (2) 山室遠照寺是雄院日琳世話
 灯主堂三間半 万灯室三間
前ノ堂室者三堂同時ニ燒失(一)」
 第五十八世日環師代天保二辛卯十月十三日再建立大
 工棟梁池上主許致良
池上藤衛玄明」
 発願主青柳村昌福寺隱居遠寿院日命聖人」
 身延山諸堂記外(北沢)

(70ウ)

世現住太遠院日聞聖人（東久成村内妙翁院日） 聖人」
（西河内世内）
 話 春米村小林新蔵
 寶柳村磯野新太郎
 同 所井上太良八
 奉納集金高金三百拾七兩貳分ト錢老貫五百四拾九
 文」
 内弘方 一金三拾七兩三分ト
（御代并人足）
 一金拾五兩三朱ト
（御法喜中贈色入用）
 百九十四文
（万灯室普願殿入用并）
 一金七兩貳分
（百味盛物台共）
 一金三兩
（白木三方百担并數書貸共）
 一金八拾四兩
（盛物造花貳百本代）
 一金貳拾四兩壹分ト
（灯主堂普願殿入用并）
 五百五十八文
（賭帳面路進物并國中信州越後佐渡）
（江戸伊豆駿河巡行橋入用）
 一金壹兩
（世話人七人江御本尊御初親）
 一金三歩貳朱ト
（御本尊三幅道具代）
 一金拾兩
（高祖御宮殿）
 惣ノ金百八十三兩三歩也」
 残り金百三十四兩也此金祖師堂再建入用五加
 之」
 天保四 癸巳年四月九日」

(71才)

〔註〕
 (1) 一ノ十六 〔朱字〕
 (2) 山室遠照寺是雄院日琳世話
 灯主堂三間半 万灯室三間
前ノ堂室者三堂同時ニ燒失(一)」
 第五十八世日環師代天保二辛卯十月十三日再建立大
 工棟梁池上主許致良
池上藤衛玄明」
 発願主青柳村昌福寺隱居遠寿院日命聖人」
 身延山諸堂記外(北沢)

身延山諸堂記外（北沢）

灯主堂再建施入面々志之諸精靈過去帳（朱字）一冊」

右此ノ序文ニ有之

御法夏七日間百味内（一味之施主銀三匁）

御法事七日間万灯内（同一日一灯ノ施主銀三匁）

右之外タトヒ一錢半紙タリトモ志次第施入可有之候」

文政十二稔丑十一月日

祖師尊像 功德主当国石和早川半兵衛

三ツ具足 施主江戸芝露月町常盤津若太夫

打鳴シ 造花一本 江戸麻布谷町妙像寺一真院日治聖人

万灯并長明室額者六十世日潤師筆」

灯主堂稀板葺家根更成就之砌明治三庚午十月十三日」

板本尊七十世勳許上人日祥在判家根更施主当国巨摩郡」春米邑

小林八右衛門喜祉為子孫長久也」

同裏書「時院代順明院日惠聖人」当番執事妙俊院日

寿願妙院日修観樹院日明」普請方南向房廿九世俊明

院日選世話人太工板築池上伊織宗治」

灯主堂家根土瓦葺更成就之砌明治五壬申年」十一月

吉辰板本尊中八寸二分大教正当山日健在判家

根替施主当国巨摩郡春米村小林八右衛門喜祉丹精

也」

同裏書「此土瓦者嘉永七甲寅十月六十七世日楹師代舞

台」之古瓦用之不足分新規足レ之葺更成就矣」

時院代東京青山體遊院日球上人当番役妙俊院日寿頭

妙院日修願隆院日勢普請方南延坊三十三世亦明院日理世話

方池上伊織宗治土瓦師伊留村望月作兵衛 以上」

〔註〕

（1）一ノ十九（朱字）

（2）嘉永五壬午七月廿五日化

（3）天保十四癸卯三月七日化

（4）日号を欠く。十八世日護上人。

（5）同右。二十世日有上人。

（6）モミ板長一尺二寸五分（頭註）

舞台三間四方 楽屋三間

前ノ舞台同楽屋并廊下等三箇所時ニ焼失（一）

第五十八世日環師代再建立」

施主東都本石町八日擗中世話人弘化四丁未八月廿六日

同五十九世日詔師代擗中登山上棟

詔師棟札云」

舞殿再建立成就天保五甲午四月吉辰上棟之砌」施主

東都本石町八日擗中^(74ウ)

同裏書ニ時普請奉行「堀場房太林院日建蓮僧房太堂院日

棟^建之房太運院日勢^感院房潮松院日逾」大工棟梁中町主

計致昆上町織衛文明中町圖書宗員^{以上}棟札」

舞台家根土瓦葺更^{六十七世}勳許上人日盪師代」

嘉永七^{甲寅}年十月吉辰棟札有之」

② 祥師代板本尊

舞殿并楽屋去嘉永七^{甲寅}年十一月四日之大地震」而

地形弛石積押出柱根傾斜椽椼差脱雨漏」難^今凌^今故^今

般地形固修補之又四柱而土瓦者重」桁^ノ垂^ノ故^ノ柿板以

葺^レ之者也維時明治元⁽³⁾年」十月吉辰為安泰守護

図以納置之」

同裏書ニ時院代順明院日惠聖人」

執^本亦是感院日行聖人^{大工碩象池上伊織宗治}

同 妙俊院日壽聖人^{池上主稅玄吉}

同 觀樹院日明聖人^{柿家銀節池上平兵衛}

同 詮壽院日周聖人^{佐野恒兵衛}

同 事遠院日甲聖人^{袖木換頭望月忠兵衛}

同 甘路方俊明院日選^{深沢半七}

同 脇明院日染^{日風風勘兵衛}

身延山諸堂記外(北沢)

(74ウ)

(75オ)

以上七十世祥師板本尊 会所下役源右衛門」

〔註〕

(1) 一ノ廿三(朱字)

(2) この一行は欄外上部にあり。

(3) 地震ヨリ十五年^(目)メ修補ナリ(頭註・朱字)

①② 鼓樓^{三間半}四方」

(78オ)

第六十六世日薪師代再建企^レ之」

同六十八世日実師代成就入大鼓」

施主者東都^{本所惣擗中}深川^{惣擗中}

嘉永二己酉年二天門寺同時頌^レ之於^ニ深川^ニ切祖^ニ海上ヲ廻シ当山江邊送再

建^レノ約速同三庚戌年春於^ニ深川^ニ手新初メ致シ作^レ之趣同七年甲寅十月迄

ニ完方^ニ出来致^シ然宛安政二年之卯十月二日江戸大地震ニ而^ニ火事出来ス

深川大工小屋ニ於テ彫物租物タルキ等焼失^ス江戸櫻葉岩田半次郎飯田常吉

同前治助」

安政七庚申正月十三日吉辰当山而新初同三月廿七日立柱」

同六月上拜成就同年十二月五日大鼓入」

鼓樓堂勸化帳之序」

抑モ甲斐国身延山ト申者宗祖大菩薩御退隱マシ」マ

シ本化別付三大秘法伝灯ノ靈地ニシテ四方ニ四大

ノ」峯聳へ白雲路ヲ埋ミ寂莫タル昔ノ扉ソニ觀念ノ

床ヲ」布キテ本化正宗根本ノ戒檀ヲ草創マシ」タ

身延山諸堂記外(北沢)

(79オ)

ルヲボロケ」ナラヌ靈跡タリ故ニ御書ニ日月支ノ靈
鷲山ハ本朝此ノ」身延ノ嶺ニ不レ異日蓮カ魂魄ハ此
ノ山ニ止ルベシ吾カ」弟子檀那等此ノ山ヲ本トシテ
參詣セシムヘキ旨仰セ」ヲカレ此ノ山ニ御靈ヲ止メ
サセ玉ヒシカハ千早振神ノ恵ヲ」タレマシ」御歴
代先聖丹情ノ功積リテ日朝上人ノ」頃ニヤ伽藍ヲカ
成就ナシ莊嚴日ニソヒ歳ニマシタテ」幾春秋ヲカ経
ニケルヲ去ル文政ノ頃ロ火災ノ為ニ諸堂」樓閣若干
焼失シテ一遍ノ煙リト成シシカトモ十方ノ」檀越ノ
丹情ニ依テ諸堂再ヒ营造成トイヘトモ未レ全」有シ
昔ノ跡モナク浅間敷焼野ト成テ此ノ山ニ詣ル吏ニ」
見ルモイフセキヲ此ノ儘ニスゴサン事仏天三宝ノ照
覽モ」勿体ナク然ルニ此度日新尊師鼓樓堂再営ノ」
御心願難默止依テ同志ノ人々ヲ語ヒ俱ニ丹情ノ力ヲ
合テ」諸堂再営ノ資補ニ備ヘテ施主ノ面々永代過去
帳入ノ」法号ヲ相記シ姓名ヲ末世ニ残シ宿罪消滅現
世安」穩後世菩提子孫長栄ノ志願ニ酬ン事ヲ欲ス」
信心同志ノ信男女等施無差別ニシテ三ヶ年ノ間」多
少ヲ不論丹情寄進ヲ希而已」

(80ウ)

院代 戒修院日確聖人
南延房日禎」
發起并執事 武井房日観」
本行母是感院日行聖人 法雲房日徳」
三十七世
志摩房妙俊院日寿聖人 南坊日周」
二十五世

普請方」

日立柱同六月」上葺成就矣
七万延 庚申 正月十三日」於ニ当山ニ手斬初同三月二十七
改元 庚申
深川」手斬初」組物彫物垂木等荒方出来然安政二年」
乙卯 十月二日 江戸大地震之節出火於深」川大工小
東都本所深川惣擗中丘」頼レ之同三年 庚戌 春於ニ東都
同裏書ニ当山鼓樓再建者日新師代」嘉永二 己酉 年秋
万延元 庚申 六月吉辰」施主東都深川惣擗中現安後善」
当山鼓樓再建成就之節納之安泰守」護之本尊也維時
建成就 実師棟札ニ」

(80オ)

大鼓堂者六十六代新師代企レ之六十八代」実師代再
深川浄心寺」
皆嘉永二 己酉 歳十月
身延山役僧」
深川惣世話人」
本所

(81オ)

円台^四妙定院日翁聖人
二十七世

大本願主

東郡深川大石弥三郎

同 伏見屋清助

同 富田屋半兵衛

同 三河屋伊助

江戸大工棟梁

岩田半次郎

飯田常吉

同 苗治助

鍛冶工

権現堂文左衛門貞友

石工

望月幸八貞治

以上棟札裏書

大鼓新堂^五移シハ同年十二月五日甲子吉辰ニ付九

ツ時ヨリ打^レ之始メ安泰守護ノ御経誦^レ之

入用金<sup>金百六拾二兩^中ヨリ送リ
金九拾七兩^中分再建^{ヨリ}出^ス</sup>合金式百五拾九兩二分

也」

积尊七十世^{神師}開光 慶応三丁卯四月

身延山諸堂記外(北沢)

常住坊日甚」

当峯大工棟梁」

池上伊織宗治」

池上主税玄吉」

家根屋棟梁」

佐野恒兵衛」

杣木挽棟梁」

池上徳之助政純」

佐野友蔵」

遠藤喜瀬蔵」

建方頭」

柿島太吉」

望月宇兵衛」

日雇頭」

志村七五郎」

(82オ)

当山鼓楼再建立成就今般柿板葺家根更成就之砌納

之」棟札檜板^{巾二尺一寸五分^身 延大教正日健^{在判}}

維時明治六^{癸酉}六月十六日上棟 施主東京^{深川}惣^二擯^一

中」^{後安}

同裏書 当山鼓楼再建立者当山六十六代」日薪師代

嘉永二^{己酉}九月企之同六十八代日実師」代万延元^{庚申}

六月再建成就今般明治六^{癸酉}六月十六日家根葺更

吉辰上棟令周備畢」

時院代権訓導日球上人時執事権訓導日寿上人」同日

賀上人同日鑑上人同日修上人鏡円院日勤聖人」頭隆

院日勢聖人時普請方玉泉房日理本願主」深川津村熊

五郎并世話人中大工棟梁池上伊織」宗治池上主税玄

吉小倉源八常延家根師池上」平兵衛佐桎恒兵衛杣木

挽望月忠兵衛池上伴右衛門」石工望月幸八日雇方

佐野勘兵衛^{佐野源助留月作十郎^{以上}裏書}」

(82ウ)

〔註〕

(1) 「鼓樓堂」を「鼓樓」と訂正。

(2) 大鼓者從^レ西打^レ東^上頭註[」]

(3) 一ノ十九へ朱字[」]

(4) 曉月院法僧日住僧主 元治元甲子年 六月十六日

身延山諸堂記外（北沢）

(5) 法号智玉院照光日輝居士文久三癸亥七月廿一日

椎鐘堂四方 番部屋九尺

前ノ堂者三堂同時ニ燒失(2)ノ

仮堂造立

文政七年甲申九月吉辰五十五世退師代大工棟梁池

上主計致昆池上織衛玄明

〔註〕

(1) 鐘從東、椎西、頭註

(2) 一ノ廿一朱字

本地塔四方二階

前ノ本地塔者三堂同時ニ燒失(1)ノ

第六十六世日薪師代再建立

嘉永二己酉年正月十三日吉辰手斬初メ

同五年壬子三月廿八日吉辰上棟

同日開堂供養御開眼并御遷座

上行菩薩像者厨子入開光日薪形

造立之趣者当国西河内楮根村正行寺十六世閑居

大僧都不退院日住上人万延元庚申九月廿一日六十八歳化奉納安置之

住古上行サツノ像者臨濟開居日現奉納ノ像者
文政七甲申年八月廿七日三寫字同時ニ燒失ス

(90ウ)

(90オ)

(84オ)

(91ウ)

(91オ)

中古上行サツノ像者京都大仏師林如水奉納之像ハ
文政十二己丑年九月六日方丈燒失ノ初奥ノ經成ニ於燒失也

棟札 当山本地塔再建上棟之柵

嘉永五壬子年三月廿八日吉辰

同裏書

世話人武田栄助

時院代妙信院日法聖人

同望月弥右衛門

昔辨方了乘院日恵

同市川三右衛門

妙定院日翁

門野村鴨狩与市左衛門

頭智院日勢

小田船志村太兵衛

兎願主

梅平村望月儀兵衛

鬼子母神法達日久

波木井村藤田閑兵衛

別同當時春教日恵

内船村四条吉兵衛

大工棟梁池上伊織宗治

当可佐野伊兵衛

池上頼母宗武

池上重兵衛

柚木挽清源兵衛

古谷繁右衛門

望月善左衛門

阪上万七

葉山十之亟

以上棟札

本地塔勸化序

高祖仰に云身延山者其の靈山事相の淨寂「光土也といへりかゝる靈場江永く屋疏并に」姓名等を書駐め

(92才)

御宝前に備置へ自然と」先祖兩親の菩提となり家内安全子孫」長久の祈禱とならん我も人もともく」に」現世安穩後生善処ハこいねかふ所なれハ」今般某^シ身延山高祖御本地堂再建立」発起の心願に付幸ひと存し広く諸人に功」徳善縁を結バしめんとほつし知音近隣の」御方^ハ」披露いたし物の多少にかきらす」御信力の淨施を奉希者也」亦く御銘々御親縁の御方^ハ」御披露被下」御志^シし御施入所希也」

天保八年酉六月日 齋願主法達日久」

柿板葺替明治十二年 己卯 十月成就七十四代」鑑師代

普請幹事里見日球」

〔註〕

(1) 一ノ十五へ朱字

(94才)

堂前石ノ水鉢并雨屋永代修復料金拾兩納之(1)」

一式之施主当国野邑矢崎又右衛門」

天保十年 己亥 十月六十二世心師代新造營之」

覺願院日蓮遺徳之臨葬業ノ水鉢ノ台石座并三門前石ノ水鉢之雨屋右矢崎又右衛門同時ニ造營寄進之

六十八世実師代板本尊 当山祖師堂前水」監雨屋柿

身延山諸堂記外(北沢)

(97ウ)(97才)

位牌堂ヨリ祖師堂^五之屋根柿廊下^長」

天保七年 丙申 二月吉辰六十世潤師代再建」

弘化三丙午年六月仲師代ニ北ノ方江寄テ修復屋根替

(96才)

祖師堂^五出仕ノ廊下^長」

毎年六月從十五日至十七日迄報恩修造講大会執行之時作之但シ常ニハ置登之

通本橋ヨリ位牌堂^五ノ廊下^長」

〔註〕

(1) 一ノ廿六へ朱字

板葺今般改土瓦葺更成就」之刻維時万延元^{庚申}年十月吉辰」

同裏書

昔師方南向房日禎

院代戒修院日確

武井房日観」

執事是感院日行

戒善坊日周」

妙俊院日寿

常住坊日甚」

妙定院日翁 瓦師望月平八 伊智村

以上裏書

身延山諸堂記外（北沢）

(98才)

祖師堂ヨリ本堂五至ルノ屋根土瓦廊下_{坂巾}」
嘉永四_{辛亥}年十一月掛之六十六世薪師代再建」

堂前唐金、宝塔一基」

施主東都酒家惣連中」

發起人江戸駒込高崎屋長右衛門」

同千住町伊勢屋甚兵衛」

嘉永二己酉年七月一切経并経蔵同時納之」

六十六世日新師代、執事本行房是盛院日行聖人、
東都深川於淨心寺ニ当山奥院祖師開帳之御納之」

供厨_二間半_一 再建_四間_五」

俗ニ御供所ト云フ、三十三世享師代再建立ノ供厨破壞
ニ付又候再建文政五壬午年九月吉辰五十五世廻師代

第五十五世日蓮師代再建立_{文政四庚ノ號失ニモ此ノ}」

施主東都藏前相磯勘兵衛一式ノ寄附」

文政十一戊子年五月廿日去

了因院_{（イ）}緣種日緣信士助兵衛」

了正院_{（イ）}妙縁日種信女後妻」

發起人_{西谷}玉泉坊智弁院日諦聖人_{天保二辛卯年}」

再建之 西谷 谷西之房 本教院日東聖人 弘化五戊申年
世師役 江戸青山山抄門等 正月廿一日化

御供所額者五十五日蓮師筆本妙日臨ノ代筆ナリ」

(101ウ)

御供所一式之丹情其外御膳具_{製于地盤}三ノ御附茶_{御茶}御登_{御登}台_{是ハ祖師堂ノ後門}」
御膳具入簞司_二通_{御御具} 御膳台_{是ハ江常ニ置ク號失ナリ}」

唐金鍋同釜等ニ至ル迄一式ノ丹情依之毎月廿日」

於_三宝蔵_一自我偈ヲ誦シテ回向ス 又_タ大衆_一齊料金

三百_一兩納_レ之 古ノ会合所縁ノ下ヲフサグ 亦_タ

御供所ヨリ祈禱_一堂ノ下迄ノ場通本ノ通りヲ残シ

ヘイヲ掛ル 皆_ナ相磯ノ丹情ナリ」

金三拾兩 永代御膳米料東都相磯氏納之」

金三拾兩 永代修復料近村中納之」

右祠堂金方_五預_ク置利潤有之右一式智弁院発願丹情

也_一」
御椀_四ツ_一納_平 平日常用 施主江戸駒町三番町土肥文谷
元治元年十一月納之禪師代 取次松井房

五十五世蓮師棟札維時文政五_{壬午} 九月吉辰」当山祖

供所棟札」

同裏書 東武浅卿相磯氏金三百兩出資」

時祖供所 玉泉坊智弁院日諦發起」

シモハンシノ御歌大工棟梁坂上宮内不成就説」

同_一 坂上四良兵衛」

以上棟札 棟梁没後丹情起立ス古谷繁右衛門」

(101オ)

(102オ)

〔註〕

(1) (弘福院宗祿日記僧士 天明二壬寅九月十四日
本福院妙日超僧女 天明七丁未八月六日)

(丁内院妙日超僧女 天明十一戊子五月廿日
丁内院妙日超僧女 文政十四丁丑八月二日先妻)

〔頭註〕

(103オ)

二天門前水鉢一對」

施主江戸釘鉄銅物問屋中」

願主今津屋平右衛門世話人今津屋平兵衛」

御铸物師江尻住山田六良左衛門藤原種秀」

于時安政四年丁巳九月日 六十七世楹師御代」

本堂前金灯籠兩基」

施主泉州堺中村富十良」

鑄工東都大門通銅屋元次良取次 東谷 宿坊 山本房」

嘉永七 甲寅 十月吉日 永代油料金拾五兩納之 楹師御代」

大鼓堂前石灯籠一基」

施主遠州長上郡内野村大久保三良兵衛同苗熊次良」

永代油料金三拾兩納之」

從文化十一戊午始起世話人中當所久米屋藤右衛門」

子孫繁昌切附有之 (是ハ三門ロリ至二天門迄道筋) 石灯籠同時歟大久保氏建立モ同シ形ナリ」

右灯籠破壊ニ付再興施主」

身延山諸堂記外 (北沢)

遠州長上郡内野村大久保三良兵衛方一」為先祖代

々靈菩提 宿房志摩房」

維時安政七 庚申 年三月再建之 東師代」

〔註〕

(1) 此上ニモ有之 (頭註)

(106オ)

通本橋廿二間 回廊」

前ノ通本橋者文政十三己丑年九月六日戌中刻方丈」焼失之類類焼失

第五十八代日環師代再建立」

施主当山惣町中」

一金貳拾兩 上町片假 一金貳十兩 中町」

一金四兩貳分 下町 一金三兩 中下町」

一金五兩貳分 大下町 一金貳兩 下新町」

一金貳十兩 狐町 一金貳兩宿 宿」

一金拾兩一歩ト 塩沢 九口合而金九拾八兩壹歩ト 十貳文」

五十八世環師棟札」

天保二 辛卯 年通本橋新掛之」大工棟梁池上主計致昆

池上織衛文明」

五十九世詔師棟札」

(106ウ)

身延山諸堂記外（北沢）

(107オ)

天保三壬辰年通本橋廊下再建立」大工棟梁右兩人」
六十六世新師棟札
弘化五戊申年十二月吉日通本橋回廊家根更成就之砌」
通本ノ額ハ本阿弥大虚庵光悦筆」

六十八世美師棟札。当山通本橋者日環師代再建」立也
嘉永七甲寅年十一月四日大地震而破損」殊柱根推朽
基陸頽毀故今般柱根継」修補成就維時万延元年庚申
十月般旦」為安泰守護圖而納之置者也 同裏書」
院 代戒修院日確 執事妙俊院日寿」

(107ウ)

執事是感院日行 同 妙定院日翁」
昔請方南向房日禎 棟梁池上徳之助政純」
武井房日観 佐野友蔵」
戒善坊日周 遠藤喜瀬蔵」

常住坊日甚 仕事師」
大工棟梁池上伊織宗治 駿州和泉屋半次郎」
池原宿和泉屋半次郎」

池上主税玄吉」
小倉源八常延 以上裏書」

通本橋廊下柿板葺更深師代 代理日陳代」

明治七年戊午十月廿初未同八ノ亥戌一月十日焼失」

右葺更金百円施主西京聖護院村石田音吉」

(108オ)

(109オ)

御真骨宝蔵三開方」
前之宝蔵者文政十二己丑年九月六日戌中刻焼失（一）」
第五十八世日環師代再建立」

兎願主 江戸本所本仏寺 改名 昶真院日倫聖人嘉永二己酉
智善院日誦 十月十五日化」
施主者 江戸本所入江町ノ住人 亀屋万兵衛夫婦」

法号 種徳院諒栄日寿信士天保九戊戌年二月六日去」
同妻 種善院妙栄日長信女天保十三壬寅十月十七日去」
一金三百三拾三兩三步 合金四百五兩三步納之」
一同七拾貳兩是八兩金也」

(109ウ)

右依ニ丹情有レ之ニ毎月六日十七日於ニ宝蔵ニ自我偈」
誦レ之回向ス」
御宝蔵内惣金極綵色金張付華天井等」

丹情ノ趣ハ駿州池田本覚寺 本寿院日行聖人嘉永四年亥
金子三百兩納之依之毎月廿五日於ニ宝蔵ニ自」我偈
誦レ之回向ス（世話并執事慈尊院日林聖人奉心院日達聖人）
御宝蔵家根銅瓦并 壁上塗ノ施主」

江戸牛込三摺（世話）」

法味摺中（世話） 土屋裕五郎」
京屋弥吉 万屋平兵衛」

開帳摺中（世話） 石屋四良右衛門 田中文七
平野屋安兵衛」

八日摺中（世話） 和田屋源兵衛 柳屋吉兵衛」

(110オ)

發起本願 江戸高田亮朝院妙守院日護聖人九月廿三日化

同世話 人松本銀次郎

弘化三年 丙午 歲企^レ之六十四世日仲師代

嘉永六年 癸丑 年八月廿八日成就

第六十六世新師棟札有^レ之

普請奉行 智報院日是^レ顯智^ト院日勢

御真骨ノ宝塔京都大仏師法橋林如水作

一式ノ施主美濃国大垣実相寺檀家 清水惣吉三十一

成同妻円女二十四歳

法号 心鏡院皎潔日昌信土喜永二己酉年十月十四日卒

円鏡院妙體日輝信女天保十三壬寅年正月二十六日卒

宝塔金蓮華花瓶共八本施主東京僧者迎名花瓶ニ彫付有之護持玉泉寺日行

取次

同蘭山ノ庵并須弥中幅ノ菊水ノ彫物等

施主銘^レ別記ニ有^レ之 彫工師池上内匠玄壽作

同入ロノ戸裏ノ張附獅子ノ画ハ

東都宗巨齊素彰奉寄附画^レ之

御靈骨宝塔ノ天蓋^②

木品天竺^② ニヤナム 日本ノクスノ木ノ如シ

織物唐土^② 東三子手繪 模倣唐土赤地

御子手繪 日本紅唐糸

身延山諸堂記外 (北沢)

(110ウ)

(111ウ)

玉物阿蘭陀種子花細工五色

願主長崎搦中

取次尾州搦中

安政三 丙辰 年八月八日山石 六十七世日楹師代

宝藏窓東西ノ障子式本ギヤマン檜

中央ノ猩々緋幔世俗云三巾 水引ト長

右天蓋同時納ル

古作ノ持国毘沙門天王ノ兩像

古作^③ノ持国毘沙門天王ノ兩像

本尊大日如来安^ス厨子^ニ脇士毘沙門北壇持国天南壇

長七尺許未^レ考以上作者天長年中ノ頃 千二百年余

古作^④ノ二天ノ像者京都松尾明神ノ社ニ有リ元ト兩

部ノ神道也此度唯一ノ神道ト改ル依之能キ便リヲ

得テ宗門ノ書堂村上勘兵衛宗門ノ仏工石見源七二

人相ヒ譏シテ御影講^⑤頼^レ之以テ身延山御真骨ノ

中央ニ奉安置也

施主京都御影搦中

嘉永七 甲寅 年仲秋六十七世日楹師為^⑥三敕許^⑦御札

上京参内妙伝寺ニ於テ内拜ノ刻納^⑧之

身延山諸堂記外（北沢）

中央金藏ノ幔窓紋九ツ附」

施主御本丸大奥 「為御祈禱納之老女兼通名ノ番文有之」

御真骨宝藏再建立此裏書下ニアリ」

天保二 辛卯年十月十三日五十八世日環判形有之

流金花 灯笼考釣御真骨宝藏江奉納阿蘭陀本國新造作工人カンムリヤ

万延元庚申年水無月 七面山江現々掛帳 世俗ニ云フ本引、并神前ノ燈掛現々掛ナリ」

六十八世日環御代 寄附主長崎異體同心擲」

我祖鴻恩施折伏逆化不願身命授是好良藥如育赤子」

大慈大悲如虛空無刃治風巾長丈三尺五寸 燭南湯鑽掛巾四尺九寸 九州長崎大野屋

喜八」

五十八代環師棟札 天保二 辛卯年十月十三日」御真

骨宝藏再建立」

要書 兎願主并世話方江戸本所本仏寺 願智善院日誦聖人

施主者江戸本所入立可住人 願智善院日誦聖人 龜屋万兵衛」

普請奉行潮運院日恵太林院日建」太堂院日棟字翁院

日永大運院日勢」

大工棟梁当国波木并邑佐野直右衛門以上棟札」

左官当国下山邑遠藤茂七」

(113オ)

(112ウ)

(112オ)

(113ウ)

御真骨宝殿棟札裏書」

当山御真骨栖神宝殿中央者」尾州信者中以格別信力於国元切組嶮山波濤之運送其」上従当五月信者惣代々而布目正兵衛諸職人引卒登山之処」於国元六月廿二日同人妻雖病死聊不愛妻子只惟再建」守心無愆惜之金言十月下旬中央奥廊下宝殿渡廊下皆」成就迄不散寸心丹情之夏実不惜軀命之為善男子依而記置而已」当山世話方泰心院日連聖門台以妙定院日翁 世話人松井坊廿九代 尾州信者惣代 同素屋新田 布目正兵衛大工方中木挽方中日雇方中以上裏書」

〔註〕

(1) 一ノ四十八朱字

(2) 阿蘭陀ギヤマン 四拾枚

広東錦キレ長巻丈七寸巾九寸四分

右破損之時用意長崎掃中ヨリ預り置右預り書差出スへ頭註

(3) 以下、「千二百年余」迄は112丁表に記してあるが、指示箇所に入した。

(4) 以下、「奉安置也」迄は欄外上部にある為、行末を示さない。

(114才)

中央六間半 廊下二間半 拜殿六間半 各棧四五尺宛 檼札三枚有之

再建立之施主者尾州惣拵中

發起大本願主尾州素屋新田久満野屋正兵衛

尾州御林山木曾山ノ檜海上ヲ廻シ当山立運送再建成

就也

嘉永三庚戌年十月十日吉辰上棟同日開堂供養并御遷

座第六十六世日薪師代大工棟梁池上伊織宗治有之

掛簡板式枚中央 黒塗

東ノ方宗祖当山開關文永十一甲戌年六月十七日

西ノ方宗祖入滅弘安五壬午年十月十三日

金灯笼一对天保二辛卯年春 攝師代

施主三州岡崎大島屋伝右衛門永代油料

同一对弘化二乙巳年七月上旬

施主当国内船村寄畑近藤太兵衛藤原長克

同一对鉄ナリナンパンテット云フ

施主武州豊島郡吉原同慶市三郎

宝塔一基天保十己亥十一月廿日 心師代

身延山諸堂記外(北沢)

(115才)

施主丹後国峯山住板垣彦次郎七兵衛
前机

施主越中国泊駅小沢与三右衛門

訓読妙経三十部折本

施主

御経机三十脚朱塗

施主上州桐生搦中 取次大栗房住慶学

貫主ノ礼盤

御経折本 并机朱塗

鑿 同台朱塗

過去帳五十八世 日廻形 同台

御靈威大過去帳

(115ウ)

夫靈瑞感通嘉名早立誠哉抑当山者本化上行再身高

祖大菩薩至尽未来際迄棲神之靈地也身者本有無作

三身也延者無始無終本有常住之義也故高祖云今本

時婆婆世界離三災出四劫常住淨土仏既過去不滅

未来不生所化以同體此即己心三千具足三種世間也

入乎其境憶其人則境即人也人即境也然則此土即淨

寂光土例如釈迦尊三千大千世界一仏化境土故云我

常在此娑婆世界別俱出靈鷲山常在靈鷲山亦云常

(116才)

身延山諸堂記外（北沢）

在者閣嶮山共大菩薩諸」声聞衆圍繞說法釈云靈山上儼然未散」矣是則寄境作言也以之標準之極成則高」祖棲神所居必此之山真靈山淨土也然」此過去帳命日戒名記之日日為回向矣其」靈魂即身成仏何疑之有哉故云法妙故」人貴人貴故処貴矣経云当地是処即是」道場也矣俯可信也」

(116ウ)

皇和文政十二竜集己丑年 賜紫身延五十八代
十二月如意吉日

日 環判形」
(朱字)
身延
主山
環日
(朱字)

打鳴シ同台蒲団共

施主 江戸銀座新庄氏 文政十三庚寅七月
法号六盛有之 環師代納之

大鼓并 台文政十三庚寅八月吉日 環師代」

施主 江戸坂本町一丁目植木店世話人 魚屋貞吉
山田屋敬兵衛

同 并 台共 嘉永六癸丑年三月吉日 環師代」

施主 江戸浅草新町丸山三右衛門四十二歳」

花瓶一对 其論 文政第三年庚辰三月 過師代」

施主 江戸細町田中卯兵衛母」

同造り花一对」

施主 江戸御花構中 永代隔年ニ立替」

木花金蓮華一对

(117ウ)

施主 東京

明治五 壬申 六月深川開帳之御納之 健師御代

燭台一对 其論ナリ」

施主 秋江ひな同門弟中」

香炉 其論 嘉永三己酉八月吉日 日新師代」

施主 江戸箱崎一丁目銅屋惣兵衛」

生華ノ花瓶一对」

蓮華形常香盤」

施主 江戸京橋南構中」

大燭台一对 台竜ノ巻」

施主 江戸浅草十二日搦中」

拜殿掛簡板式枚 朱箱 嘉永五壬午年冬 新師代」

東ノ方吾祖棲神玉骨鮮永留ニ舍利ニ資ニ人天」 賜紫日庇 拜母

西ノ方每拜感涙懐ニ恋慕ニ滅後靈光曜ニ幾年」 (朱) (朱)

再興之施主 堀之内妙法寺住戒厚院日解聖人」 (朱) (朱)

而実不減度ノ額者彫彫師小沢半兵衛」

村雲御所日尊師筆号 瑞正文院日尊宮尊儀 慶應四戊辰十 伏見宮恩女

一月十二日殺」

安永七甲寅秋檢師上京参内之類領之 江

寛政三丙辰夏六月四日之類而掛之拜殿ニ過師代」

御鏡一面并 台天保八酉年八月 過師代」

(117オ)

(118オ)

(118ウ)

施主江戸大平春女」
茶湯仏器」

施主江戸浅草藏前伊勢屋曾兵衛 妻母女

同三方并 蠟張附嘉永二(一七二五)年七月 新節代」

施主江戸万代十二日樽中」

御膳仏器同台并如設附 施主不レ知」

出仕ノ半鐘文政九(一八二八)丙戌四月吉日 日新節代」

施主江戸深川蛸店身延樽中」

開帳ノ節供養ノ小香炉 天保八(一八三七)丁酉七月」

施主江戸八丁堀小川氏 山本氏 各家内

御膳具一式箱入 嘉永三(一八二二)己酉七月 日新節代」

施主 一」

拜殿西ノ方」紀伊侯御先祖位牌仏壇一式」

紀伊菊千代君再興之」

仏壇黒塗金張附金唐紙六本作之」

嘉永四 辛亥年夏要行院日忠ヲ以テ御屋鋪出」頼レ之

同五 壬子年春成就」

三ツ具足厨金 前机春慶盃

同東ノ方」左京侯御先祖代々ノ仏壇一式」

松平左京大夫頼学卿再興之」

身延山諸堂記外(北沢)

(119ウ)

仏壇黒塗金張附金唐紙六本作レ之」

嘉永四 辛亥年春正月要行院日忠ヲ以テ御屋」鋪出

頼レ之同年秋成就」

三ツ具足厨金 前机春慶盃

三ツ具足眞鍮 金燈花 前机瓜盛

中央ノ盃式拾者位拜殿ノ盃三十式立」

施主尾州樽中 永代尾州樽中ニ而表更」

三ツ具足眞鍮 金羅華 前机瓜盛 御寶藏附前」

香炉眞鍮角ナリ 同台朱盃

觸台朱盃

神鏡一面」

宝塔一基施主大坂身延八日樽中 明治六癸酉六月大教正徳師大坂説教之勅納之

過去帳同台朱盃 施主大坂身延八日樽中 明治六癸酉六月吉辰大發正日徳辨形 初ニ首題有之」

御宝藏廊下ノ掛札」

永代常経 浪州今尾足立氏」

常経料金五百 両成院置サ大 坂長田氏」

金百 両文化三辰年納御 本 丸浜岡老女」

金貳拾 両是原院抄松日録大姉サ大 納 主 渋谷金五郎」

金拾 兩 江戸小石川依田妙縁尼」

指ヶ谷町

(120オ) (120ウ)

身延山諸堂記外（北沢）

同 金五十兩 野州宇都宮 崎尾新右衛門 同重左衛門 同忠右衛門 同重兵衛 門

同 金五十兩 東 都北品川搦中

同 金百兩 京 都万人搦中取次 丹波屋助

同(15) 金貳百兩 文化四巳ノ 江戸高田智徳院日苜聖人

同(17) 妙経一百部 感通寺 尾州名古屋屋妙瑞俗名リノ女 中搦裏住

同(18) 妙経一百部 尾 州信者中

常盤科金 八兩 文化四巳ノ 大 坂炭屋善助

金 拾兩 江戸藏前相磯勘兵衛妻

永代大金 金三百兩 文政三辰 同 相磯勘兵衛

永代大金 金拾六兩 武 州川越搦中

永代大金 金三十兩 加州金沢 綿屋源助 富田屋長右衛門

御齎料 金三十兩 加州金沢 綿屋源助 富田屋長右衛門

永代大金 金十兩 文化七辰午 江戸小石川依田妙縁尼

大務齎料 金百兩 尾 州名古屋搦中取次 笹屋伝兵衛

永代油料 金百兩 加州金沢 綿屋源助 吉田屋庄三郎

同 金十三兩 三州岡崎大島屋伝右衛門

同(22) 金七拾兩 尾 州関口円明院

同(24) 金三十三兩 遠州内野村大久保三良兵衛

同(25) 金三十兩 江戸芝口河内屋善右衛門

同(26) 金百兩 天明五巳年 加 州金沢搦中取次 相磯院

同(27) 抹香料金 十兩 越中富山松屋清蔵

同(28) 永代料金 貳十兩 越 前福井搦中

同(29) 永代料金 貳十兩 江 戸京橋搦中

同(30) 永代料金 貳十兩 加州金沢綿屋源助

同(31) 永代料金 拾五兩 文政五年 越中富山室屋治右衛門

同(32) 油料金 十三兩 加州金沢 綿屋源助 吉田屋庄三郎

同(33) 油料金 貳拾兩 大 坂河内屋弥兵衛

同(34) 油料金 貳拾兩 大 坂河内屋弥兵衛

同(35) 常盤料金 百兩 天保三卯 小伝馬町 戸大黒屋平重郎

同(36) 油料金 五拾兩 文化三寅 尾州名古屋 十一座庄兵衛 安田屋彦 笹屋伝兵衛

同(37) 油料金 五拾三兩 文化四卯 江 戸鶴屋市三郎 同妻キク女

同(38) 永代油料金 三十兩 尾州藩中 中村富十郎

同(39) 常盤料金 百兩 慶応三卯 尾州藩中 永平六太夫

同(40) 七面山永代御齎料 金 拾兩 同同時代 右同人

(121ウ)

(121才)

(122ウ)

(122才)

④ 永代常経 毎年御経料納中ヨリ納ル 東都御真骨常経搦中

御経一部八巻 同箱机共 打碁シソ 同台 碁 布同共テレンブ 過去帳上
下二冊上ノ巻 瑠璃師首題序文下ノ巻 瑠璃師首題 同旨引出シ付 右三品共黒神
金具シヤクドウ

再 (世話人 區沢町 區沢盛兵衛)

発 村松町 扇屋孫八 盛応院受法日教信士 慶応四戊辰三月十八日
配 同 越後屋政吉 証光院本覚日有信士 慶応三丁卯八月廿一日

御真骨水金五拾兩 山本坊前在要中院日頭聖人
代常経料

〔註〕

(1) 明治十五年二月廿二日七十八歳去
法号寂光院法入日澄居士

(2) 東面身延御真骨栖神宝殿等普請小屋場

北面弘化丁未 四年十一月二日新初嘉永二丁酉三月

十九日於当地上棟此日遠近僧俗群会調軌則矣

同酉九月廿九日出船嘉永三年戊戌 四月二日初

荷山着同年十月十日於身延山令上棟御遷座者
也

南面当山御真骨栖神宝殿等再建主者以於国産之楮

材欲奉調刻既越遠路峨々嶮山凌漫々海上風波

無恙到着矣依之數多諸職人引率而正今再建成

就畢也亦為凌雨露于玆苑一字号寂光精舎是全

前代無比類以丹誠故為信力増進面々祈現安後

身延山諸堂記外(北沢)

善者也焉

賜崇身延日薪(元押)
六十九代

西面なにゆゑに碎しほね乃なこりぞと

思へは袖にたまそちりける

(昭和)三十四年七月十六日樋口是端師より見せられて後日の
ために鑑記し置くものなり 尾州重正寺に在りと云ふ 弘日・
林是端師記

〔押紙〕

(3) 曆安政四丁巳歳至五百八十四年(朱字)

(4) 曆安政四丁巳歳至五百七十六年(朱字)

(5) この一項欄外上部にあり。

(6) 紀伊公牌前(頭註)

(7) 源性院殿牌前(同)

(8) 秀徳院殿牌前(同)

(9) 智徳院殿牌前(同)

(10) 御真骨(同)

(11) 御宝蔵(同)

(12) 金二百兩先方ニ預ケ利十兩ツム来ル

(13) 御宝蔵(頭註)

(14) 祖堂毎月十三日一日宛施主(同)

(15) 祖師堂ノ(同)

(16) 小嶽山
安政三辰七月二日六十六化(朱字)

(17) 御真骨

金五拾兩文化十四丑四月 又金廿五兩

身延山諸堂記外（北沢）

合七十五兩納（頭註）

(18) 御経料每年先方ヨリ来ル

(19) 御供所ノ（頭註）

(20) 祖堂ノ（同）

(21) 祖堂前外常夜灯（同）

(22) 祖師堂前常夜灯（同）

(23) 「円妙院」を「円明院」と訂正。

円明院妙忠日高大姉

(24) 二天門前（頭註）

(25) 三門金灯籠常夜灯（同）

(26) 祖師宝前常夜灯（同）

(27) 御真骨前（同）

(28) 御宝蔵ノ（同）

(29) 祖堂ノ（同）

(30) 廿九口ノ千八百八十五兩（頭註・朱字）

(31) 御宝蔵常夜灯（頭註）

(32) 御宝蔵油料（同）

(33) 祖師堂ノ（同）

(34) 元金先方江預ケ利足毎年来ル

(35) 御真骨（頭註）

(36) 同所（同）

(37) 本堂前金灯籠二基（同）

(38) 御真骨（同）

(39) 合而百十兩春米小林預ケ

(40) 御真骨中央ノ（頭註）

古仏堂三間半

前之室文政十二己丑年九月六日方丈同時ニ焼失（一）

(128オ) 第五十八世日環師代再建立

施主者 御本丸於屋満御女性「法号松寿院」

天保二辛卯年五月四日良辰ニ付再建斧始「同年十月

十三日古仏堂上棟之砌 日環判形棟札有レ之

同裏書 時之普請奉行堀場房太林院日建惣傳房十一世太

院日棟三十三世太運院日勢智波房潮運院日恵大工棟梁

中町主計致昆上町織衛玄明中町凶書宗員 木挽棟梁中町

惣右衛門以上棟札

天保二辛卯十月環師代下ノ段五西向ニ再建立之有レ

之「処地形築地故東五地形下ル故ニ嘉永五壬子四月」

薪師代上ノ段御宝蔵与並へ南向ニ引レ之武州神奈川一中山

而引之趣ニ普請方妙音房円台房円柳房 会所結世話

人葉山十之返

宝塔一基妙經一部八卷

施主者奥院御袈裟構京橋北構中

(129オ)

(128ウ)

(128オ)

高祖五百五拾御遠忌御恩環師代」
文政十三庚寅年七月

寿且擗ノ宝塔一基第三十六世潮師筆」

天保元年辛酉四月
天保四年癸巳七月再建 詔師代」

花瓶一对 嘉永二西七月 新師代」
施主京橋北病(一)中

同造花一对 施主御花中永代隔年ニ立替」

香炉 真論 天保二卯年九月 蘇師代」
施主尾州御殿御連名

神鏡一面 同台 天保第八丁酉七月大安日
施主江戸芝口土橋病(一)中 洞師代」

打鳴シ并台共」身延山久遠寺常什御宝藏前
文政十二年十月日 日現納之」

瓶子二ツ三方共 嘉永二己酉七月 新師代」
施主文字大夫斐常登祿伊智」

祖師御経全部 日新同机共 嘉永二己酉七月
東郡藤王病(一)中」

蓮華形香炉 真論 宗祖五百五十遠忌初
江戸小網町伊勢屋吉右衛門」

竜之巻花瓶一ツ 唐金施主不知」

鶴亀形燭台一ツ 同 施主不知」

燭台一ツ 眞論 願主深川仲町松屋藤助」

焼物宝塔一基 同大香炉一ツ」

施主尾州名古屋陶本屋勘治郎」天保二辛卯年六月
尾州額戸加藤新七作」

仏天蓋 施主
安政四丁巳年秋開帳之初 祖師御代」

六十九世琢師代家根更柿板葺成就文久二壬戌年三月下流」

身延山諸堂記外(北沢)

(130オ)

(129ウ)

〔註〕
(1) 一ノ四十八(朱字)

奥位牌堂三間」
前之室(方丈同時ニ燒失(一))」

(134オ)

第五十九世詔師代再建立」

再建立施主当国教来石住河西六郎平」

夫婦法号 円徳院麗山日嚴居士天保八丁酉五月十二日化」
是則院妙精日進大姉文政十二己丑六月十八日去」

(2) 五十九世詔師棟札云、

天保三壬辰年十月吉辰上棟之砌納之」

同裏也 増場房太林院運信坊太堂院堂之房太運院」感虎坊潮松
并御奉行 棟梁 大工 中町主計致昆上町織衛文明中町函書宗員」

院 積尊座像厨子入 三十一世日脱開光」
元下中谷仙台房常什 天保三年辰十月再建」
成院ニ付奥位牌堂江座安置也

須弥壇朱塗并金具一式」

六十一世心師御代時院代 慈謙院日義聖人月廿四日化 丹情

也」

過去帳 天保十三壬寅春正月改 六十一代日心判形」

同台 施主江戸藏前坂倉清兵衛」

貫主ノ礼盤并御経同机」

再建立施主当国教来石住河西六郎平」

夫婦法号 円徳院麗山日嚴居士天保八丁酉五月十二日化」

是則院妙精日進大姉文政十二己丑六月十八日去」

身延山諸堂記外(北沢)

(135オ)

打鳴シ井台 嘉永二己酉七月 薪師代
施主五百深川一乗 捐(イ)中
大香炉二ツ 唐金 施主不知
花瓶一对 其論 施主京橋北條中
燭台一对 同 施主神田池上取持 捐(イ)中
香炉一口 同 施主卯年女性外連名

合而五具足 嘉永二己酉七月 薪師代

造花一对 施主江戸御花 捐(イ)中 立賣致ス

天保三壬辰 十月 薪師代再興有レ之処 築地ノ故ニ東ノ

方江下ル依レ之嘉永五壬子 四月 薪師代古仏堂ノ引

跡江移シ少シ西ノ方江 寄テ建レ之 任掛并手問 寄進ナリ古

仏堂同時ニ引立之右依ニ再捐薪
師ヨリ三枚統ノ本尊造シ之

当山奥位牌堂家根土瓦葺更成就之砌 嘉永七甲寅年

二月吉辰六十六世日薪判 瓦師伊沼村望月作兵衛 上棟

札

五十九代日詔師代再建ノ奥位牌堂嘉永七甲寅 歲十一

月四日ノ大地震而地形下リ皆潰レニ相成將軍家

御代々ノ尊牌諸大名方御位牌当山代々ノ先師御

位牌并仏具等不残皆潰ニ相成 六十七世日櫛師代

〔註〕

(一) 一ノ四十七へ朱字

(139オ)

一切経藏三間 各儀六尺箱四方
前ノ経藏者方丈同時ニ焼失(イ)
第六十六世日薪師代再建立

一切経 實徳藏判也 筆筒八掉

同経藏 同四方庇主瓦

傳大士普成普建ノ像 六十六世日薪開光

右一式ノ施主東都酒家惣連中

時嘉永四年 辛亥十月十三日 六十六世日薪判 形有レ之 当山

一切経并 経藏再興成就之砌 同 撰書

発願主 発起本願人

時院代妙信院日法聖人 江戸駒込高崎屋長右衛門牛長

本行所是感院日行聖人 同 千住伊勢屋甚兵衛

本願主 太彦院日等聖人 大工棟梁

大進房英中院日孔聖人 当所中町池上伊織宗治

頭正院日光聖人 左 官 遠藤常八郎

以上棟札裏書ノ写シ

薪師代再建有レ之経藏嘉永七甲寅十一月四日ノ大地

震而壁不レ残落故ニ酒家連立頼レ之安政三年ノ冬

震而壁不レ残落故ニ酒家連立頼レ之安政三年ノ冬

(139ウ)

(140オ)

四方ノ庇ヲ掛壁塗更修三營之 楹師代」

楹師棟札 于時安政五戊午年九月吉祥辰」当山一切
經藏者新師代再建未滿内嘉永七甲寅」年十一月四日
之大地震而悉破壞依之經藏壁塗」替四方庇附行道椽
廊下新造成就之砌」

裏書。

院代智禪院日頭 普願會所 世臨人池上重兵衛 杣木挽頭

同 妙音院日声 同 佐野伊兵衛 池上德之助」

執事要中院日頭 同 葉山十之亟 同 佐野友藏」

當番是感院日行 同 望月善左衛門 同 遠藤喜瀨藏」

當番智順院日逗 大工棟梁 池上伊織宗治 左官 下山村

同 妙俊院日寿 同 武田頼母宗武 遠藤常八郎」

同 妙定院日翁 同 池上主税玄吉 同八日清 同八日清 市場村 七」

同 鏡闌院日賀 家根屋小倉久右衛門 石工 当下町

普請智寂房日運 同 佐野恒兵衛 望月幸八」

同 戒善房日暎 瓦師 同夜子 沢村 渡辺新太郎」

同 麓房日修 伊沼村望月平八 以上棟札並也

施主東都酒家中 発起本願主 高崎屋長右衛門 伊勢屋甚兵衛

実師代上棟之札」

身延山諸堂記外(北沢)

身延山一切經藏皆成就上棟之節維時安政七」年庚申

四月二日吉辰藏經共一式之施主東都酒」家惣連中発
起人高崎屋長右衛門伊勢屋甚兵衛」
同裏書。

經藏再建之始 普願奉行

日薪導師 南延房日楨 瓦師 伊沼村 望月平八」

日楹導師 武井房日觀 杣木挽頭

院代永寿院日等 法雲房日徳 池上德之助」

同 戒修院日確 南向坊日周 佐野友藏」

執事全中院日慧 常住坊日甚 遠藤喜瀨藏」

是感院日行 普願會所 世臨人 左官 下山村

智順院日逗 池上重兵衛 遠藤常八郎」

妙俊院日寿 佐野伊兵衛 同八日清 同八日清 市場村

智妙院日弘 葉山十之亟 清 七」

智近院日孝 望月善左衛門 石工 当下町

妙詮院日静 大工棟梁 望月幸八」

智運院日頭 池上伊織宗治 同夜子 沢村

妙定院日翁 武田頼母宗武 渡辺新太郎」

鏡闌院日賀 池上主税玄吉」

厚澗院日曼 家根屋 以上裏書」

(141ウ)

(141才)

身延山諸堂記外（北沢）

智俊院日逢 小倉久右衛門

智観院日逢 佐野恒兵衛

一切座并座敷再建立ニ付嘉永二己酉年ロリ東都酒家連
中助成之類リ金高

金千五百七拾五兩ト壹貫百七拾貳文也

万延元年 庚申 四月高長伊勢甚登山ニ而目錄帳上ル

外ニ施入志靈法号帳一冊上ル

法号 文久二壬戌三月廿三日 文久二壬戌年三月廿三日死去
高祿院久定日勤居士 高祿屋長右衛門半良法号也

〔註〕

(1) 一ノ卅七八 一ノ六十七（朱字）

(2) 慶応元乙丑十二月廿九日六十九歳

(3) 五代目 文久二壬戌三月廿三日
法号高祿院久定日勤居士

(4) 明治二己巳四月朔日五十三歳

(5) 安政二丙辰五月廿一日五十一歳

(6) 嘉永四辛亥四月三十日三十一歳

(7) 明治四辛亥未七月十七日化

(8) この一行、欄外上部にあり。

(9) 同右。

小方丈九二間

此ノ殿云古法殿間又云上ノ座トモ水鳴楼共
前ノ小方丈四間与同時ニ焼失（一）

第六十世日潤師代再建立

(144ウ) (143ウ)

施主者当国巨摩郡春米邑小林小太郎喜五

天保六乙未年ノ冬再建企ノ同七年丙申春成ニ就ス此ノ年西条少将領學御
ノ御参詣ニ付俄ニ再ニ建之ニ施主者ニ喜五、喜五、小林氏ノ檀那寺智徳邑邑福寺
江永代ノ辨紋白ノ襷袢令ニ免許ニ早大村領御所ノ御免状ニ有之故也

第六十六世日新師代家根更柿板葺也弘化五年 戊申

藏院代妙信院日法聖人

第六十世潤師棟札 当山水鳴楼再建立 令成就之者
也天保七年 丙申 春二月吉辰

裏書

時院代相寿院日誠聖人 大工棟梁

時執亦潮解院日明聖人 当町

志摩厨太量院日考聖人 池上圖書宗員

西之町太量院日棟 池上舍人玄宣

武井 厨音中院日願 棟札長一尺六寸三分

感 応 坊潮松院日逾 棟札巾九寸一分

水鳴楼一字再建立之施主春米村小林小太郎

水鳴楼土瓦新規葺更砌安泰守護本尊謹築毫之

明治七 甲戌 四月八日奉図之施入面々祈二世安樂者

也 大教正七十二年 延日健形

同裏書 当山水鳴楼家根元ト 柿板葺也今般新規土

(145才)

瓦葺改成就之砌納之

時院代執事東本青山體遊院十二世日珙聖人 時一老執事

志摩房妙俊院日壽聖人 普請方玉泉房俊光院日理

二十五世東之房頭光院日瑞 元ト水鳴樓一字再建立ノ主今

般土瓦葺金百円 寄附ノ主春米村小林八右衛門喜

社 大工棟梁 池上伊織宗治同子息龜之丞 柿板屋

根師 池上平兵衛 土瓦屋根師伊沼村望月作兵衛房

富 杣木挽望月忠兵衛

[註]

(1) 一ノ卅五へ朱字

(2) 文久三癸亥十一月十六日六十八歳
法号善德院了智日蓮居士

(3) (棟札) 檜板巾一尺五寸九分 へ頭註

大方丈十五間

前ノ大方丈者厨子与同時ニ燒失 (1)

第五十八世日環師代再建立 施主松和田谷法類中

棟札巾九寸六分 長四尺五寸 日環判形 大方丈上棟之砌天保二竜集

辛卯年十月十三日

裏書

身延山諸堂記外(北沢)

(上・中段)

時普請奉行

時普請方

一之願太研院日梵聖人

鳩場坊太林院日建

妙之寺(3)本寿院日了聖人

蓮骨坊太堂院日棟

龍 房潮諦院日解聖人

龜之房太運院日勢

大工棟梁

下山宿

佐野喜内正標

以上

石川久左衛門源宅胤

第六十世日潤師代大方丈造作ス唐門玄関等」建之

天保七 丙申 年春成就

第六十六世日新師代家根土瓦葺更成就」之砌嘉永三

庚戌 歲八月吉日棟札日新判形 裏書へ附五配ス

大方丈惣座鋪ノ画者

東三間竹ノ画者内藤彰川藤原昌言ノ筆

西上段同二間三間大広間東上段同二間宗巨齊筆

東三間竹ノ画者内藤彰川藤原昌言ノ筆

同三間竜ノ画者金剛右近藤原氏成ノ筆

入側日ノ出并象ノ画者星野彰心藤原繁是ノ筆

右惣座敷張附并手引等安政二年乙卯九月 日楹師為

(146才)

(下段)

身延山諸堂記外（北沢）

自普請一營^レ之醫師甲府町住人

宗臣^{神号} 德元^{神号} 靈神^{右ノ丹情有之間当山江懸起立シテ} 永代月牌^{神道ナリ} 徳元^{スル} 日向^{向科金三兩餘木主計納之}

同人ノ妻 信彰院妙邑^{女普提寺当山末谷中長蓮寺}

大方丈葺更薪師棟札裏書云

(147ウ)

当先殿者为賢師棟札施主羽柴武蔵守一路之室殿下

秀吉公姉関白秀次公岐阜宰相秀勝公一母堂瑞竜院殿

日秀尊儀也秀勝公天正廿年^{文禄 手辰} 九月九日於高

麗国他界法号光徳院殿前參議清嚴大居士為追薦文

祿二^{癸巳}十二月建立之于爰自然天災文政十二年

丑稔九月焼失時環師松徒仍而其類末抽寸志再建之

今此大方丈也乍然家根柿板葺故近年及大破今嘉永

二^{戊酉}歲普請世話一方并奉行雖評葺更更切立木且

計永持且惟時輕營以土瓦欲葺替奇哉于時參詣之

信士伊沼村平八幸初業瓦於之望輕引請猶評決而任

信力之意備宝黄式百兩相渡之其余家根地之外大工

作料瓦駄賃等方金百兩惣計以三百兩手普請葺更成

就愛畢

于時嘉永三^{庚戌}年八月吉日 棟札^{山塔尺四分} 奉行僧麓 坊鑑乘院日達

時院代妙信院日法聖人 妙音坊了乘院日惠

(149オ)

時番頭太彦院日等聖人

本備坊五世 時當 坊英中院日孔聖人

大工棟梁 中町池上伊織宗治 瓦師伊沼村望月平八^{以上 裏書}

第六十世潤師棟札 天保七歲^{丙申} 春二月吉日 当山

大方丈者日環師代再建今般造作唐門 玄関等新建立

令成就之

同裏書 時院代相寿院日誠聖人

時院代相寿院日誠聖人

大運^{時院} 潮解院日明聖人

志摩^{三十三} 世太量院日考聖人

西之^{奉行僧} 財太量院日棟

武井^房 音中院日願

感心^坊 潮松院日愈

大工棟梁 下山宿佐 野喜内正標

同 所石川久左衛門源宅胤

玄関棟梁^{当所新可清} 榿 蔵 矩 懐^{以上}

註

(1) 一ノ卅六へ朱字

(2) この一行欄外上部にあり。

(3) 後ニ(日)光ト改

会合所二十四間

前ノ会合所ハ厨司同時ニ焼失(一)

過去帳上中下旬三冊同台黒塗并拵ノ故附

年曆不レ知相伝フ遠師代ノ頃

貫主ノ礼盤

同御経廿五册同机天保六年乙未十一月

施主武州江戸愛宕下高橋仁左衛門重隆

同鑿并台 文政九丙戌二月吉日

施主江戸麴町搦中

真鍮花瓶一对天明三癸卯十一月

施主当国荆沢邑市川安之丞

同造花一对 施主江戸御花搦中永代隔年

金灯笼一基其輪小形 天保二辛卯九月

施主江戸連名灯笼有レ之

大打鳴シ并台 享保二丁酉年六月辰辰

小打鳴シ并台 身延山久遠寺常住

燭台一对ビヤクタン 施主開運要品搦中

常香盤

身延山諸堂記外(北沢)

(150ウ)(150オ)

出仕ノ大鼓益被シ 嘉永三年庚戌九月納之

施主江戸浅草新町御大鼓搦中十四人有之

〔註〕

(1) 一ノ卅一

(2) 年数を欠く。二年の事。

奥書院并学問所休息所二十間

前ノ書院ハ厨司同時ニ焼失(一)

第六十七世日楹師代安政三丙辰 年秋再建合三所

一棟ニ造ル安政六己未年春造作成就

楹師棟札 楹板巾一尺二寸三分 長二尺九寸四分 当山奥書院再建立二十間

成就安泰守護之棟札謹染毫之 維時安政三年丙辰 十

二月吉辰上棟納之

同裏書 時院代妙音院日声 発願主并執事 智順院

日逗 執事并 勸進智文院日遊同 要中院日顯是感院

日行妙俊院日寿 智近院日孝 智運院日顯 妙定院日

翁 鏡闍院日賀 普請方要運院日順 智運院 日暎頭

妙院日修 世話人系屋新田久満野屋正兵衛西郡小林小

太郎喜五前佐野伊兵衛 望月善左衛門 大工棟梁池

上伊織宗治同 小倉源八常延 家根師小倉久右衛門

(160ウ)

(160オ)

身延山諸堂記外（北沢）

(161才)

池上「平兵衛佐野恒兵衛 柚木挽頭池上徳之助」遠
藤喜瀨藏以上真書
上段床柱唐木イヌ木也 施主春米村小林小太郎
西北両縁側板鋪張ノ施主 羽州山形佐々木甚蔵母
金二 両慶応三丁卯年祥師代
天井二間施主
柿板葺屋根更 明治四 辛未年七十一世禱師代

〔註〕

(1) 一ノ百五十四へ朱字

(164才)

厨子二十二間 香積也又云庫厨又云庫裏或云ハ
十五間 庫裡一世俗云三倉所
前ノ厨司ハ文政十二己丑年九月六日夜焼失(1)

仮厨司再建十六間 嘉永ノ地震災故ニ明治四辛未年四間縮メテ
九間半 二間底ヲカケル 禱師代

文政十二己丑年十二月吉辰再建成就

五十八世環師棟札有之 杉板巾一尺四寸五分
長四尺七寸

妻登 普禱院 房潮諦院日解上人
奉行麓

同 岸之房本寿院日光

同 智寂房潮運院日恵

(上段)

(下段)

(164ウ)

同 端場房太林院日建
普禱蓮信房太堂院日棟
同 光精房善察日永
同 常栄房顓明院日清
同 常栄房太極院日玄以上
大工棟梁池上軒致尾
池上幾衛玄明

大黒天ノ木像

文政十三年 庚寅年再彫刻 五十八世環師開光

地震災 嘉永七年正月四日破損地形東ノ方三尺下ル
安政二乙卯年五月修復成就 繼師代

惣修復 明治四年 辛未五月成就七十一世禱師代時

院代智順院日逗

〔註〕

(1) 一ノ卅四へ朱字

(2) 「顓明院」の「顓」を是ト改ル

大門東谷
二間半

裏門家根檜皮葺替六十七世 日楹師棟札云

(171ウ)

安政三年丙辰天 裏門家根替造作手入普請成就
二月廿八日納之

同裏書
普請奉行
普請方

本行房是臨院日蓮聖人
南之別智願院日蓮聖人
智察房智願院日蓮
戒喜房智願院日蓮

池上伊織宗治
池上賴母宗武
池上芳吉
大工棟梁
檀皮葺師
小倉久右衛門
佐野恒兵衛
以上
裏書

〔註〕

(1) この一行欄外上部にあり。

新土蔵三間半

第六十七世日檀師代新建立安政二年

新土蔵往古ヨリ無シ之始近年ニ及諸配變多分ニ相成故ニ
南谷教普房ノ土蔵ヲ引テ建立也

永守稻荷社一尺五寸同雨屋九尺

初勸願ノ時代不詳相ト伝フ四十四世後師歟四十七世後師ノ頃ト云フ三十三世子師ノ踏堂紀等ニモ無シ之其ノ已後歟不詳

五十八世環師代焼失ノ後ニ社鳥居等再建板本尊ノ御身體環師ノ筆有レ之及ニ破壞ニ故檀師代再建檀師御発起院代当番近習中其外助誠成就ス檀師板本尊有之 大工棟梁池上伊織宗治 永守稻荷大明神社再建成就御遷座維時安政万年第三 丙辰 二月初午日山内安泰施主銘々所願満足而已以上 檀札

身延山諸堂記外(北沢)

(175オ)

五重宝塔三間四方 高拾二丈三尺但シ九輪共二十間半ト成ル

前ノ五重塔者文政十二己丑年九月六日野子ニテ燒失之跡飛火ニテ顯焼失

第六十六世日新師代再建企レ之
施主当国中大題目擲中

嘉永六 癸丑 年四月八日再建新初同年六月廿六日地

形初之砌安泰成就板本尊有之 六十六世日新判形

九輪并金物鐫物節殿州江尻宿山田六郎左衛門藤原徳秀

同元治元甲子七月成就
同元治元甲子七月成就
同元治元甲子七月成就

六十六世日新師棟札 檜巾一尺三寸

当山五重宝塔再建立施主当国中大題目 擲中皇和嘉

永六年 癸丑 四月八日新初同 六月廿六日地形鑰建之

砌

同裏書

院 代妙信院日法 龜起太左衛門主 田島 村望月五右衛門光朋

執 事妙仙房太彦院日等 春米村小林小太良喜五

普請方妙普房了乘院日惠 同子息八右衛門喜社

同 門台房妙定院日翁 大工棟梁 町池上伊織宗治

同 蓋普房頭智院日勢 下 町池上賴母宗武

以上裏書

(175ウ)

(176オ)

身延山諸堂記外(北沢)

六十七世日徧師棟札 椶巾二尺二寸五分

当山五重宝塔再建立施主者当国中大題目「搆中心信増進一切無障礙之彼安政三丙辰年」四月八日立柱同五戊午年十二月三重目迄組」建成就之刻納之同裏書」

院 代智禪院日願 苑起 田島村 望月五右衛門光朋

同 妙音院日声 春米村小 林 小太郎喜五

同 妙音院日声 八右衛門喜社

同 當番要中院日願 会所結世話人池 上 重兵衛守一

同 是感院日行 佐野伊兵衛

同 智順院日逗 望月善左衛門

同 妙俊院日寿 大工棟栗池 上 伊織宗治

同 妙定院日翁 同 頼母宗武

同 普願方要順院日運 柚木 挽池 上 德之助政純

同 戒善房智逗院日暎 佐野友藏

同 庭 牙頭顯院日修 遠藤喜瀬藏

同 石 工望月幸八

同 以上裏書 銀治 工權現堂文左衛門貞友

六十八世日実師棟札 椶板巾一尺七寸五分

(177ウ)

当山五重宝塔再建立成就之節万延元年」庚申九月吉辰奉凶之同年十一月十日(上極盛極)再建造立之大施主当国中大題目搆一結信力」増進現当二世大願満足同裏書」

当山五重塔再建之始

六十六世日新尊師 嘉永六年四月八日初初

六十七世日楳尊師 安政三丙辰四月八日立柱

一老 知恩房 四世 太善院日大 普請奉行

院代 戒修院日確 當番役 門台房二十七世 妙定院日翁

三老 智文院日遊 普請方

四老 房音中院日願 南房二十七世 妙賢院日禎

五老 要中院日願 武井房二十五世 鏡音院日觀

中取 全中院日慧 法銀房三十二世 遠寿院日德

當番 是感院日行 戒善房三十二世 詮寿院日周

常 住 房智雄院日甚

志摩房二十五世 妙俊院日寿 苑起大本願人

箕林房三十一世 智妙院日弘 田島村望月五右衛門光朋

濱水房三十一世 智近院日孝 春米村小林小太良喜五

林蔵房三十一世 妙詮院日靜 同子息八右衛門喜社

(178オ)

(178ウ)

龍之房三十一世智運院日顯」

松井房三十一世鏡閣院日賀」

隨身 役厚澍院日曼」

惠喜房 四世智親院日透」

國沢房四十二世智鮮院日鑑」

會所結世路 町入池上重兵衛守一

同 佐野伊兵衛

狐 町葉山之亟臣辰

同 望月善左衛門

上 町池上内匠玄諦

中 町古谷善右衛門

下 町佐野豊之亟

小田舟原村志村太兵衛

大工棟梁

中 町池上伊織宗治

下 町池上頼母宗武

上 町池上主稅玄吉

片隅町小倉源八常延

大工肝煎 佐野元兵衛 田月常七

身延山諸堂記外(北沢)

榎屋小倉 久右衛門」
池上平兵衛」
佐野恒兵衛」
池上德之助政純」
佐野友藏」
遠藤喜瀬藏」
山田六良左衛門(藤原)

(179ウ)

國口勘右衛門 遠藤嘉七 柿島太吉」

庄村喜三郎 池上友兵衛 望月宇兵衛」

佐野銀七 遠藤松助 會所下役志村七五郎」

笠井伊左衛門 千頭和友右衛門 以上裏書」

逆修知本院淨惠日教清信士」

田島村五右衛門光朋ノ法号也」

善徳院了智日惠信士春米村小林小太郎喜五事 文久三癸亥十一月十六日六十八歳

宝城院延喜日社信士同子息小林八右衛門喜五事 明治十年丁丑十二月二十三日六十歳

〔註〕

(1) 一ノ六十二(朱字)

(2) 「社」を「社」と訂正。

(3) 安政三丙辰十二月廿三日化

(4) 慶応四戊辰五月十二日化

(5) 「(顯蹟院)の(顯)を」妙ト改

(6) 「信心」を「信力」と訂正。

(7) 註(2)に同じ。

(8) 明治五壬申十月十八日六十歳 (顯註)

(9) 明治九丙子六月二十七日七十四歳 (同)

(10) 明治四辛未四月廿六日八十四歳 (同)

(11) 明治二己巳八月十一日五十七歳 (同)

身延山諸堂記外（北沢）

- (12) 明治八乙亥九月廿三日六十七歳（頭註）
清月院宗真日如僧土
- (13) 明治五壬申十月廿六日（同）
本理院法性日如僧土
- (14) 明治廿三年庚寅七月十二日七十七歳（同）
明治廿三年庚寅七月十二日七十七歳
名体院宗用日如僧土
- (15) 万延元庚申閏三月廿七日七十二歳（同）
親行院聖道日如僧土
- (16) 明治九丙子年五月四日八十四歳
深入院法信日如僧土
- (17) 明治十二己卯八月一日六十二歳（頭註）
明治十二己卯八月一日六十二歳
侶明院常延日如僧土
- (18) 明治五壬申五月二日六十八歳
明治五壬申五月二日六十八歳
明令法永日如僧土
- (19) 実師ヨリ二枚統紺紙金泥本尊造ス

(181オ)

高祖御廟八角堂三間一尺

前ノ八角堂ハ文政四年辛巳八月九日夜九ツ時燒失

第五十五世日蓮師代再建立

文政五壬午十月十三日成就施主ハ堂内金君板ニ有リ
大工棟梁池上主計教長池上藤衛玄明

八角宝龕惣修復塗替

明治十五年壬午八月十三日落成抄福坊内野日蓮 発

起浅艸玉泉寺廿五世前住職鶴川日行聖人 施主

東京有志連世話人十八名ノ連中ナリ

大前机朱塗 明治十七年申十月 内野日蓮

八角堂今ト増度葺ナリ 土瓦新規葺 明治廿年丁亥七月

落成七十五世修師代抄福坊主海徳日蓮丹精也 施主者

(183オ)

帝釈堂二間半 西谷在本行房

尊像從古ニ在ニ奥院高祖開光大字三郎授身之尊像ナリ
維時安政五年午年山六十七世僧部代本行房五安座

堂新造立 六十八世実師棟札有之

身延山西谷帝釈堂遺建成就之節維時万延元庚申年九月庚申日本行房中興三十七世現住是感院日行聖人助成面、現安座替

同真云云 大帝釈天王之尊像者一住古弘安年中高祖大士自開眼而比企大字三郎能本在授、身之被為在尊像也、有故実師安座去ル安政五年秋、日蓮師代西谷本行房者大字三郎本行院日字之旧跡故、西谷本行房五奉移老幼婦女之誓令、易參詣今茲帝、釈堂遺建成就安奉守護之棟札置築菴之

御宮殿施主者当狐町麻屋留月誓左衛門

(183ウ)

五具足其給ナリ 施主江戸

仏天蓋御宮殿ノ内 施主江戸

(185オ)

唐本一切経 明藏

本藏二百一十一函之外統藏九十函又統藏三十八函目

録一函合三百四十函乃是唐本藏也

假高岸ノ藏經ハ本藏二百一十一函ナリ實藏藏モ亦二百一十一函ナリ
何レモ身延山藏ヨリハ二百一十九函少ナント知ルヘシ

倍テ此ノ度納ノ藏經ハ本藏二百一十一函ニテ一千四百五十四冊ナリ

統藏九十一函ニテ六百五十三冊

ナリ又統藏四十七函ニテ四百十九冊ナリ合シテ

三百四十九帙 延山旧本ヨリ九函多シ
二百五十六冊ニシ共冊ノ故ナリ

(185ウ)

傳大土普成普建ノ像字節開光

男子入釈迦尊ノ像厨可入亨師ノ像

右五鉢御衣更

丁巳七月吉辰

安政四丁巳歲八月良辰武州江戶谷中領玄寺江当山亨

師ノ納之唐本一切経今般奉納領支寺現住良雅日感代

良雅日感ハ胸込良元寺洞照院日均聖人弟子也師弟共ニ相ヒ願シテ当山

江納之右之依ノ功領支寺永代其法類ニテ相統之旨免立道之

古仏堂ノ祖師江戶深川於浄心寺開帳ノ砌 六十七世日

極師代

(1)

御首題南無当来解脱東陽善慈傳大士

賜紫永袈衣初祖 身延三十三世 日亨判形

辰師堂二間四方御拜附 東谷在妙仙房

棟札 明和三丙戌年十一月吉拜日 賜紫身延山四十三世 日見判形

節節日辰聖人影像奉安置之道場也

授与之願主菩提日恒者也

東谷樹下庵常住本尊也

同裏書

身延山諸堂記外(北沢)

(187ウ)

東谷樹下庵境内者東者上之根根迤西者大迫迤南北者ノ深根也古孝了雲房清閑

房有此処中古武井房此ノ一鶴江引去ル壬午ノ九月旧地ニ鳩ル故ニ七面山五

十五代之別ノ当寿遠院日長初而一字建立シ其ノ名ヲ号ニ樹下庵ニ即当山四十

二代之貢主日辰上人開基也明和三丙戌ノ十月十八日辰尊者御影堂建立之奉三

宝高祖ノ御影殿節御像安置之者也

大工棟梁当上町 同 屋根屋 疎右衛門 木挽上新町 月清七郎

同片隈 僧王佐五兵衛 同 同苗喜太郎 堀沢 疎兵衛

近藤嘉兵衛 同 同藤平 手伝上新町 同 疎右衛門 孫之丞 以上棟札有之

板本尊 東谷樹下庵常住 四十二代日辰判形

辰師一枚本尊 宝曆八改貞慶三月日身延山東谷片殿沢樹下庵常住本尊也

二枚統本尊 宝曆十二年十月吉日身延山東谷片殿 沢武井房引跡境内不

之樹下庵常 四十二世日辰判形

本尊 当山東谷塔中樹下庵庇被殿ノ孝恭院殿尊聖塔令永代扶持方料寄附ノ依

与之山本房廿四世ノ妙法寺二世大翁院日現聖人 賜紫身延日地判形

本尊 吾山東谷片殿沢妙仙房封内者故日辰之所ノ附与於樹下庵也以故今復奉

寛政十二年庚申十一月吉辰 五十一世日全判形

孝恭院殿贈正二位内大臣尊儀

天明二壬寅年七月三日

妙仙院殿理性智榮日忠大禅尼

掌慈院殿御乳人 初崎中野竹右衛門藤原清房ノ女

(187オ)

身延山諸堂記外(北沢)

(188ウ)

真如閣ノ額者四十五世伝師ノ鑑也元ト(二)秀悦坊ノ額也此ノ堂五移レ之
辰師尊像丈 紫御衣裳御紋附袈裟七条 御珠紋 御羽二重
御厨子木爪形 丈 エビ鏡附 大鼓同台 御経八卷経 同机 斗
帳錦ケマン 朱塗 常香盤皇月五兵衛 三ツ具足唐金ナリ 前机
打鳴シ同台布團 簾二流

〔註〕

(1) 四十二世耐慈院日辰上人 字修海

明和二乙酉十月十八日八十歳遷化(頭註)

(2) この一行、欄外上部にあり。

(189オ)

興師堂表口二間半奥行三間 椽四方三尺五寸宛茅葺御拜拵 醍醐谷有リ林盛房ニ
棟札 嘉永六癸丑年九月七日再建立成就之棟 札六十六
六世日新判形 常在院二十九世現在 智進院日静上人

再建施主当所下町惣若者中 大工棟梁池上頼母宗
武 以上棟札

本理院日持代 田代祖堂再建ニ付古堂興師堂雖レ運
朽故不レ用須弥左右柱ニ本耳用レ之
尊像作不知御丈九寸 緋紋白袈裟紫衣珠数

御経 卷経八卷 同机 斗帳 赤地錦 厨子 木爪形丈四尺 此ノ厨子
智進院日静代 元ト彫向

(189ウ)

石七面社ノ厨子本阿司(二)宮原村ロ 前机 常香盤 釣金灯笼
リ奉納依古厨子ヲ興師堂五移ス
大鼓同台

〔註〕

(1) 六老僧伯耆阿闍梨日興上人

正慶元年 壬申二月七日八十八歳化(頭註)

(3) 「本理院」より「用レ之」は欄外上部にあり。

(190オ)

朝師堂四間 東谷在寛林房
前ノ堂者延享四丁卯七月七日下之坊ロリ出火之節類焼
明和三丙戌年十二月再建立 善翁院日養代
朝師御宮殿 安永七戌戌年九月日發代
施主尾州住関口内明院妙忠日高夫婦

同前机 安永七戌戌九月日發代
朝師堂額者 大光山主筆 発起主大坂宝樹寺五世日理
明和五戌子年五月 大坂二十九人

〔註〕

(1) 眼病守護加賀阿闍梨行学院日朝上人 字鏡澄

当山十一世 明応九年 庚申六月廿五日七十九歳化(頭註)

妙見宮 二間 中谷在リ松井房

尊像 北辰也伝教大師御作木爪厨子入

(191オ)

(193才)

尊賀堂二間半 西谷在常住房一
日延上人影堂也尊賀院伏見百部房親王御子京妙覺寺廿五世貞承元甲子年九月九日七十二歳當山日延上人ノ弟子三間建立之願昔隨奉行勅ト云フ西谷常住房ニ御住居

(194才)

二十三夜堂二間四方ヤ木納板ヲキ 片隈京山本房ニアリ
尊像
厨子

(195才)

松尾大明神ノ社二間四方ナリ 松二尺七寸短ニ三万茅葺屋檜御拜所西谷在 西谷在在 松尾大明神勸請寛政十戊午九月吉祥日当山五十世

(195ウ)

日沾師板本尊有之法皇御教秀院日如代
永代毎年九月二十三日祭礼三十番神日御ツルカ十三日故ニ祭一礼日トスル儀
松尾神社再建立世要善院日光代文化五年 戊辰十二月吉祥当山五十三世奏師棟札有之
同一裏書 大工棟梁当町瀬沼左右衛門四郎以上棟札
御尊像御眼不知 斗帳紺地錦 御宮殿木爪厨子也
前机白木 施主信州酒造関兵衛
鳥居
御経料甲金三両 施主当所松尾樽中
御堂茅屋根葺更 施主上町河内屋重兵衛不知

身延山諸堂記外(北沢)

(197才)

罌口一ツ施主月夢
寿量院社三間 别当円台房
社再建宝曆四甲戌歳寿量院文殊遷宮陀羅尼品一千余卷成并処建立之主竹之房一日教代木札有之
社三間再建 当山五十五世日逞形棟札有之
文政八乙酉年六月如意珠日寿量院文殊稻荷大明神一遷宮

(197ウ)

ウラ母当所中町世話人曾左衛門繁右衛門七一别当円台坊廿五世憲誠院日遇代以上
六十六世日薪形板本尊有之 土瓦葺更一成就嘉永五手 九月日土瓦施主伊沼村 望月平八一特別当妙定院日翁判形裏書有之

(198才)

明治九年丙子九月十七日ノ大水通本橋下社皆潰ナリ
更地再建九尺 寿量稻荷大神日鑑形依水災一堂字破損再建落成謹書之
明治九年一十二月七日上棟遷宮祈山内井町内安全一有志面々二世安楽者也 檜板一枚一尺二寸九分厚四分五厘
ウラ母寿量文殊社二間再建成就上棟之砌一 明治九丙子十二月七日吉辰

身延山諸堂記外（北沢）

(198ウ)

榮起世話方 東京仙寿院邊院里見日扶聖人」同三十四世林房妙俊
院鈴木日寿聖人」時別当三十八世教明院要惠松木日
順」世話人大村河住宗四郎 中町池上与兵衛」上町遠
藤佐左衛門 中町一ノ宮与右衛門上町田中勘三郎」 棟梁
池上伊織宗治 同 小倉源八常延 棟木挽」遠藤真三郎 同
青柳惣八 地形并 建方池上作重郎」同 佐野源助以上裏書」
再建入費金七拾四円也 内金十五円寺中 金三十一円町中 金二十八円本院依丹
情落成也」
宮殿施主 東都新宿若松屋 嘉永五壬子年四月 妙定院日備代」

〔註〕

- (1) 「社三間再建」は欄外上部にあり。
- (2) 「更地再建三間」は欄外上部にあり。

(199オ)

地神宮 三間半 向拜拵 南谷在 常樂坊」
常樂坊 是明院日清文化九年ヨリ在位廿七年ノ一問地神堂
十六世也 天保九年迄
庫裏廊下其ノ外不残再建立有之」
地神ノ額ハ五十五世暹師ノ筆」

(200オ)

清正堂 間口三間半 遷靜院初再建立 在 遷泉坊」
遷泉坊初祖遷靜院日泉聖人清正公大神威初再安位

(200ウ)

其ノ後当山」六十六世新師代大尊像威沢倍者ヨリ納之新師開光初ニハ門師
堂ニ安位ニ次ニ此ノ堂ニ遷座也」
清正堂宝蔵再建立末レ満之内嘉永七 甲寅 年十一月 大
地震而皆潰依之又再建企レ之」

清正堂 間口三間半 拜所附」

遷泉坊六世要寿院運性日栄代 文久四年甲子正月辰成就」
右堂文久四年甲子二月廿日山火事飛火ニ而傾倒スルヤ」

遷泉坊林坊延壽坊妙正堂新宿在家四軒同時ニ焼失」
清正堂 四間 元治元甲子二月廿三日再建企之新初」
明治六年四月 成就上棟并遷座」

健師棟札 檜板巾一尺五寸 七十二代 大教正日健御判」

① 当山東谷清正堂四間四方再建成就明治六年癸酉二月廿日上棟并
遷座之禮奉因之安奉守護之棟札也懸入之面ニ現三十二世大願濟尼也」
② 当山清正堂者去元治元甲子年二月廿三日地形并新初建二十年ニ至明治六年癸
酉二月廿日成就上棟并遷座令 同箇一畢」遷泉坊六世要壽院日永代再建立本
願人二月廿日 成就上棟并遷座令 同箇一畢」

発起本願人 大工棟梁 大工世話役」
波木井近藤治右衛門 当所中町池上伊織宗治 下山村」
堀 沢道月吉五郎成茂 下山 村石川政五郎為豊 牛奥吾兵衛」
門野村佐野太郎左衛門 下山 村松木左内成完 岡清子村」
波木井村依田新吉 早川 村桂原源四郎為友 榎木挽棟梁」

以上裏書 新宿屋月初之盛」
清正堂土瓦成就棟札 七十二世健師判 明治六年癸酉十二月廿日吉辰
願世話人中一依丹精者也遷泉坊六世要壽院日永授字之丹精面、進名有之、瓦
師伊稻村道月作兵衛左首八日市若尾清七以上本也有之」

〔註〕

- (1) シモテノ頭註

(2) ウラへ頭註

(201オ)

開会関ノ額修復当山四十七代
日登輝師御代 時院代 奉行松林房
十之巫時安永万年
丑龜集四月日以上裏書 智照院 法須房 大工方下町勘
塗師狐町葉山

惣門檜皮葺更梁札四十九世延
紫身延 日地判形 院代 潮文院日邊 普請方

門台房日廻 大工坂上宮内 家根屋兩右衛門 寛政第六

甲寅 天秋七月大吉祥日 以上棟札

惣門檜皮家根更棟札賜紫身延
六十七代 勅許上人日楹判形

于時安政五戊午年十二月吉辰小林小太郎金五十兩納之

惣門外西ノ方石垣積更
大治十八年乙酉六月三十日ノ
大長雨押出シ同年十二月成就

惣門唐金ノ宝塔一基安永八己亥六月
日登輝代
施主大坂河内屋秀兵衛

惣門外唐金宝塔一基

外石宝塔一基天保
翁願主鞍州小島普立寺方内院

高祖五百五十遠忌御報恩附録

(201ウ)

身延山諸堂記外(北沢)

身延山諸堂記外(北沢)

(1オ)

明治八年丁亥一月ヨリ記之

第三之卷

身延山 再々建立記録
諸堂塔

(巻)巻
印)印

(1ウ)

明治八年乙亥一月十日〔旧七年十二月三日ナリ〕午後六時西谷本種

坊ヨリ」出火諸堂〔本院向支院十二ヶ坊町三戸類〕

焼」棟数大小百四十四棟」

明治十五年壬午十一月廿四日〔旧十月十四日 午前十二時正午ナリ〕庫裏

天井上ヨリ出火」講究所小書院生徒寮支関焼失」

明治廿年丁亥三月四日〔旧二月十日〕午後二時中町蛭子屋

望月宗五郎ヨリ」出火町百三十八戸飯二玉門妙見

堂松井坊山本坊円台坊」竹之坊法雲坊北ノ坊善学

院寂光坊円正坊芳春坊」玉泉坊類焼」

祖師堂二十間

(朱)印)

(3オ)

大工棟梁
当中町池上伊織宗治

同所一之宮与右衛門」

遠藤日寿聖人

同村川住宗四郎」

當田増穂村
普住寺住職

増穂村井上五左衛門」

體遊院日扶聖人

落合村新津又兵衛」

飯高寺住職
下総開飯高村

増穂村小林小太郎」

普請幹事

世話人」

安泰守護之棟札也」

五月十三日」六百遠忌万部経誦供養令落成者也」

(2ウ)

同裏書」

開山宗祖日蓮大菩薩御影安置之祖師堂」間口十三間 奥行二十間 明治十一年戊寅二月十四日再建立新初」同十二年己卯

二月三日立柱同十四年辛巳歲」四月廿五日吉辰上棟

同月廿九日宗祖大土」遷座開堂供養同月從三十日至

五月十三日」六百遠忌万部経誦供養令落成者也」

表書。今此三界〇能為救護」

明治十四年四月廿五日祖師堂再建落成謹書」於祖山

本院東軒」

棟札 檜板巾一尺九寸 身延山日鑑寫形」

本ト江戸風山感応寺ノ本堂也 天保年間新寺建立徳川」十一代文憲院殿家齊
公新建ノ堂願寺ニ付相模國鎌倉此企」谷妙本寺在江引取タ、位、今同明治
十丁丑年柱四十八本高栗」彫物等金三百円ヲ以テ買取海上船廻シ無事山岩
外圍(一)徑一座ノ分トスル也 内圍(二)ハ新殿建立也」

(3ウ)

同上町小倉源八郎常延 家根師

同中町池上龜之亟宗正 當下町池上平兵衛

同狐町樋口勘十郎義高 彫工

仏師兼塗師 深川後藤功祐

伊勢町京奥村雲開 袖方頭

同奥村眠開 當下町青柳惣八

鋳師兼銅家根師 同狐町遠藤定右衛門

同水道町鈴木兼吉 同所同苗新三郎

木挽頭 左官

同下町志村安藏 同中町池上伝吉

鍛冶工 增穂村深沢忠兵衛

同下町鈴木嘉兵衛 豊師

同所今村源兵衛 同狐町田中万右衛門

石工 建方

豊岡村小林平之亟 同上町池上作重郎

以上裏書 同中町佐野源助

宗祖御宮殿家根榮惣丈一丈八尺四寸 仏師東京淺草北松山町 一条町遠藤文七

明治十三年庚辰九月落成 免起東京淺草玉泉寺前住職廿五世福川日行聖人

施主東京有志連中 入費金六千円也

身延山諸堂記外(北沢)

(4ウ)

伊東茂右衛門 田口庄七 高橋安右衛門

大塚丸屋藤八 滝沢巳ノ吉 大黒屋平十郎

同藤七 鈴木由兵衛 鈴木鉄五郎

同吉兵衛 伊東長三郎 吉野甚三郎

本八池田忠兵衛 鈴木新次郎 沢崎徳兵衛

同田中芳兵衛 谷口熊五郎 山本文女

右世話人十八名也

人天蓋 幢幡 大打鳴シ 同台施主大坂年參結社中 明治十四年四月納之

大常香盤明治十四年四月納之

施主大坂年參結社ノ内ウツゴ白藤嘉助

前机朱箔明治十四年四月

施主東京前机擗中本願主補田平井安右衛門信吉 修復金百五十円ノ田地ヲ附置此ノ積金ヲ以 再遊ス

五具足所金 金蓮華一对明治十四年四月 免起人福川日行聖人此ノ施主名下ニアリト 一名

造華并華瓶鉄 施主東京最初御花擗中

木華金蓮華一对并花瓶

施主東京本所 堅川南北擗中明治八年五月納

金灯籠一对真鍮 明治十年一月納之

施主能登国羽喰郡信徒中

焼物灯籠一对明治十四年辛巳十月廿日建立

(4オ)

身延山諸堂記外（北沢）

施主肥前国有田皿山法元寺信徒中」

山主ノ礼盤并御経机 鑿 同台 過去帳 同台」

施主大坂 山家屋孝女」 明治十四年四月」

御経机百脚阿闍梨形 朱塗

内五十机 施主播州明石郡大蔵谷村三国茂三郎邦義」

内五十脚 施主越後上州野州堺町信徒中」

姓名経机有之 明治十四年四月」

御経机共百脚クリ足磨産産

施主美濃国笠松蓮国寺檀中」

行道椽擬宝珠并釘隠」

施主越中国信徒中明治十四年三月」

小打鳴シ 同台朱塗 明治九丙子年」 施主 」

前机朱塗 明治八年亥九月」

施主東京本八丁堀五丁目松屋田中芳兵衛」

木花金蓮華一对 明治八年九月」

施主千住南組田中屋上原瀧野女 母 八十八女

五具足」 施主 」

祖師御膳具三ノ總領受付 漆湯碗三方付 明治八亥五月」

施主東京桜花擗中世話人神田 山村金右衛門

桜花 明治八亥五月ヨリ」 永代施主右同擗中世話人 右同人

(5ウ)

(6オ)

(6ウ)

太鼓益敷シ 明振盆金箔ヲヤ 明治九年丙子」

施主東京浅草亀岡町直木寄附」

平太鼓益敷シ 明治九丙子年四月」 施主大坂妙鬼擗中」

蠟燭台拾二本真鍮 経座用 明治十七年四月」

施主東京浅草年参擗世話人花井万吉 取次宿坊林房

賽銭箱」 施主横浜擗中」

栖神閣三文字額 七十四世鑑師ノ筆」

明治十六年十月奉掛 彫工ノ施主東京駒込大工職飯田秀次郎」

須上ノ前机敬盆箱塗

燭台一对真鍮

生花焼物錦手花瓶一对」 施主 」

前机上ノ五具足并金蓮花一对入費金八百円也 発起東京浅草玉栄寺前住蘭川日行有老人金次郎ニ出ス

岡田富三郎 福井菊三郎日本橋 長谷川町 建石三蔵」

矢沢菊蔵 有泉又蔵 八ッ橋辰五郎」

伊豆 鈴木伊兵衛 竹田治兵衛 村松善五郎」

木村豊吉 高橋恒七 以上十一名」

永代昼表」 施主備前備中備後三ヶ国信徒中」

焼香ノ香炉 雨屋共一式」

施主東京銀座秋葉大助」 明治十四年六百遠足際納之」

(7ウ)

(7オ)

石ノ水盥修復 先天天保十三年香蓮破破ニ付修復」

明治十四年御遠忌際修復 有野村矢崎又右衛門」

雲ニ蓮華ノ画左右天人ノ画并岩ニ牡丹獅子ノ画」

後門羅漢ノ画等尾州名古屋源道恭敬筆」

銅瓦葺 向拜并左右ノヤネノフマヲ葺キ大組ノ亦故ニテ
一時土瓦ニテ仮葺ス廿二年十二月土瓦落成日修代」 明治十八年乙酉
九月」 鑑師代葺初

金牡丹一对并花瓶」

明治十九年一月十四日山着」

施主東京

世話人阿國
木具屋小沢徳吉」

金灯笼一对 府領 施主内船村近藤大兵衛」

明治十四年六百遠忌ニ付鑑師代修復ス」

大打鳴シ并台衆盤 蒲団二枚 棒」

明治十八年乙酉 五月東京開帳ノ際鑑師代」納ル施

主東京府

土瓦葺」 明治廿二年丁亥十二月落成保存会ノ金ヲ以テ葺之」
七十五世修師代

向拜所敷石 明治廿二年己丑四月成就 修師代」

施主信徒之面々 発願人東京芝区田町一丁目」井之

口弁五郎并信徒連中」

向拜所ニ釣大金灯笼一ツ」

明治廿二年三月納之修師代」

身延山諸堂記外(北沢)

(8オ)

(8ウ)

(9オ)

(9ウ)

施主大阪年参擯信徒中」

外 坂上釣小金灯笼二ツ」

明治廿二年四月納之修師代」

施主東京浅草区本所通横川町」能勢妙見山連中」

唐戸拾六本 マイラ戸四本代金二百円余」

施主東京本町四丁目」大倉金庫店萩原弥吉」

明治廿二年ヨリ同三年四月成就修師代」

大打鳴再鑄」

明治卅二年三月卅一日奉納」

大坂年参擯中 良師代」

幢幡 木製総金箔」

明治四拾叁年五月廿八日 慈師御代」

施主京都真浄講 金藤盛吉
吉田茂八」

隠願灯笼」

明治四十四年五月 慈師御代」

施主京都真浄講」

紫縮緬大幕」

明治四十年 全」

施主真浄講」

青地金欄御戸帳 兩共
兩並」

身延山諸堂記外（北沢）

明治四十^(一)年 全^(一)

施主真浄講^(一)

青銅灯籠^(一)对^(一)祖師堂大香炉^(一)右左^(一)

大正三年宗祖六百五十遠忌為御報恩^(一)

施主京都日體寺土谷日察師^(一)

祖師堂前石垣^(一)山崎石^(一) 高四尺^(一)

大正五年三月竣工^(一)

施主東京青山南町六丁目望月軍四郎^(一)

費壹千五百五拾円ノ内^(一)千三百七十八円寄付^(一)

石工甲府相生町星野完吉請負^(一)

祖師堂裏石垣^(一) 東西^(一)間^(一)高^(一)

明治^(一) 敲師御代^(一)施主春米小林^(一)

祖師堂前高灯籠^(一)石丸柱^(一)高^(一)拾^(一)尺^(一)

明治卅九年日露戰役記念 良師御代^(一)

施主東京新宿勢州樓福井豐藏外^(一)

礼盤蒲団^(一) 大青地綴子^(一)

大正五年八月^(一) 施主仙台市 東郷正作^(一)

小赤地繪子^(一)

大正^(一) 施主大津市 羽賀静子^(一)

打鳴蒲団^(一) 紋縮緬^(一) 白^(一) 紅白腹合^(一)

(10才)

(10ウ)

(11才)

(14才)

(14ウ)

施主 京都^(一)

〔註〕

(1) 「六百元」を「八百円」と訂正。

(2) 「買求ル」を「修復ス」と訂正。

御真骨ノ宝蔵八角五間四方ノ土蔵 銅瓦葺^(一)

本^(一)折禮堂ノ旧地^(一)江新^(一)ニ建立 施主尾張國物搦中^(一)

明治八年乙亥十一月九日再建新初^(一) 七十三世薩師代^(一)

同 九年丙子三月十一日地形鑑立^(一)

同 十四年辛巳三月廿一日上棟同廿二日遷座同廿三日供養^(一)

表^(一)

棟札 檜板長^(一) 三^(一)尺^(一)王^(一)舎^(一)城^(一)身^(一)延^(一)山^(一)日^(一)鑑^(一)判^(一)形^(一)

中人常充満 令百由旬内無諸衰患火不能燒水不能涸^(一)

此堂七十三世薩師ノ筆也九州巡教留守中前住薩師登山^(一)上模式遷座勳之^(一)

此堂薩師代企圖師代上棟落成也^(一)

宗祖大菩薩御真骨^(一)五間八角之宝蔵一式^(一)寄附之主尾張

國惣信徒中維時明治八年^(一)乙亥十一月九日再建新初

同九年^(一)丙子三月十一日^(一)地形鑑立同年九月十日柱立

同拜殿^(一)五間半^(一)拜所^(一)二間半^(一)武蔵國堀之内村妙法寺扣同國

荏原^(一)郡洗足村御小庵之祖師堂也当山真骨堂ノ拜殿

ニ「寄附依而明治十一年戊戌六月海上船廻無事」山
 着同年八月廿六日柱立同十四年辛巳三月廿一日」上
 棟同廿二日遷座同廿三日惣供養令落成者也」安泰守
 護之棟札也」

普請幹事

当国世話人」

(15才)

體遊院日珠聖人 井上 五左衛門」
 尾州元方世話人 川住 宗 四郎」

鈴木 勝 蔵 池上 与兵衛宗直」
 時田 吉 蔵 大工棟梁」

鷺見 弥 七 池上 伊織宗治」

河本 惣 助 小倉 源八常延」

村上 治兵衛 池上 亀之丞宗正」

水野 弥 七 樋口 勘十郎義高」

尾州大工棟梁 杓方頭 青柳 惣 八」

柴田 健左衛門 遠藤定右衛門」

木挽頭 志村安蔵 同 苗 新三郎」

(15ウ)

家根屋 池上 平兵衛」
 左官 池上 伝吉」

石工 小林 平之丞」

建方 池上 作十郎」

佐野 源 助」

身延山諸堂記外(北沢)

(16才)

真骨ノ宝塔^{四角} 於同国ニ造立シテ当山ニ持寄^一
 以上裏書」

尾張国物信徒中^{宝藏ノ角唐木枕香木ナリ長崎中寄附}
^{同宝藏ノ蓮華座銀也 英邊國寺院中寄附ナリ}

世話方本屋新田村久濟島屋^{布目正兵衛}」

明治十三年^{庚辰} 四月十四日山着」

仏天蓋^{木品天竺木也 織物唐土 玉物阿蘭陀}

長崎長照寺^{拵中}」^{明治九年二月発願同十一年第四月成就依而}
^{同年五月廿六日山廻同廿八日奉掛同廿九日供養}
 ナリ」

世話人岡 本清七 林 為三郎」

宮崎 政吉 落合与兵衛」

蔵原 為三郎 万屋花晃」

中村丈右衛門^{唐木師中村守五郎}」

宣徳香炉^{井台築箇} 寄附^{主長崎平井橋蔭}」

御真骨拜殿前上リ石ノ階段」

明治廿三年一月成就日修師代^{代金百円也}」

施主浅艸今戸町平井清次郎」

御真骨堂打鳴^{経音尺ノヤ}」

大正五年十月」施主岐阜県大垣身延年^{参拵中}」

御真骨堂宝殿銅屋根葺替」

大正六年八月九日^{銅板長四尺幅者尺貳寸コ一(ル長板五百枚}
^{谷板及下リ板ハッ新板ナリ(五百枚付)}」

(16ウ)

身延山諸堂記外 (北沢)

(17ウ)

名古屋伝灯拵服部増藏鷺野久助「尾張千人拵林忠三郎ノ三氏屋根職人」数名引卒登山十一日着手旧屋根銅板」全部削取り土居葺ノ代リニ杉赤味六分」板ヲ以テ裏板上ヘ張り詰メ新旧ノ銅板ヲ一以テ葺替ヘヲ了セリ此間監督諸氏ハ修」善中日々現場ニ臨ミテ職工ヲ督励ス而シテ宝珠ノ」下ニ空氣抜キ二個ヲ調へ通風ヲ計リテ醇」腐ヲ防グ葺替竣成棟札ハ檜材沓尺」式寸巾六寸ノモノヲ土屋根銅屋根ノ中間ニ納ム」

(17ウ)

宝殿入口地下統キノ塲所陶器ヲ廻廊ト同様研ギ」出シニテ張り替ヘタリ」
拝殿向拝ノ銅屋根モ同時ニ修理ス」
監督伝灯拵服部増藏鷺野久助」千人拵林忠三郎丹羽清五郎」大工眞所池上保治外式名 木挽佐野仁藏外三」屋根職工 名古屋中区大福町町丁目廿五番地 桂川清一郎外」

〔註〕

(一) 明治十五年二月廿二日七十八歳去
法号寂光院法入日泊居士

(19オ)

真骨堂ノ拝殿間口五間半 御拝二間半御拜側四方」

(17オ)

本武州堀ノ内妙法寺神池上落足御小庵ノ祖師堂也」建立ノ時ノ樞中江依頓
当山江寄附程上嘉爾無密」山寄明治十一年戊寅八月廿六日拜殿柱立同十四
年辛巳三月廿一日上棟同廿二日懸障同廿三日供養令願備者也」
棟札ハ宝殿拜殿一枚ナリ」
從拜殿廊下長八間 中八尺」
至宝藏内 五具足宜徳 木金蓮花一对」 金灯笼一对」
前机朱漆 寄附尾州名古屋無上擲中」
寄附尾州海東郡柴唱擲中」
礼盤 御経机 過去帳 同台 鑿 同台」
寄附尾州海東郡柴唱擲中」
釣り金灯笼一对 明治九年丙子三月納」 名古屋大野紋一郎」
同一对 明治九年丙子三月納」 名古屋大野紋一郎」
同一对 名古屋鈴木正七奥田清兵衛」
拜所鏡天井ノ千羽鶴ノ画并 宝藏内彩色等」
尾州名古屋源道恭敬筆」

(19ウ)

金灯笼一对 施主尾張国」
油料金式拾円 名古屋」
打鳴シ一個 大野茂三郎」
永代常経 施主東京御真骨常経擲中」
御経一部八卷 箱机共 打鳴シ 同台 棒 蒲団共」
去帳 同台右三品共黒棉ヲ以作之 世話人」

(20オ)

明治十四年 辛巳 四月再興シテ納之
赤井政吉 大川貞兵衛 伊藤庄右衛門」

御経机（ハジキ朱堂元政彫）三十八脚

施主書銘々机書付有之明治二十二年

打鳴シ 同台朱堂 同棒 同蒲団 施主

其骨堂拜殿（廊下長折廻り三十一間）
真師堂（江波リ）廊下（中西二間東分九尺）

(20ウ)

明治十四巳年三月落成

打鳴シ一個 尾張国名古屋世話方中

時ノ鐘楼三間四方（附付 土瓦屋根）

(23オ)

施主南条組題目結社中

元ト（山江寄附）坂門下ニ有之舊地シテ元ト（山江寄附）合所ノ西江再建ス此ノ鐘楼南巨摩郡小林村南明寺樓也一新障弘ニ出ス春米村小林八右衛門南条組五郎シ買取当

明治九年 丙子十一月地形初同十年 丁丑一月八日柱立

同年四月八日落成

表母 祝報時鐘楼落成母之 明治十五年六月十八日

棟札 檼板長一尺五寸六分 身延山日鑑判形

見聞四家六根清淨如 追母於極神閣

表母

時之鐘楼施主者当国南巨摩郡南条組題目 結社中明

治九 丙子十一月地形初同十年 丁丑一月八日柱立同

年四月八日落成同十五年 六月十八日上棟 普請幹

事體遊院日珎聖人 本願人春米村小林八右衛門同

身延山諸堂記外（北沢）

村土屋七良右衛門 落合村新津又兵衛 大工棟梁 杉木 挽望月忠兵衛

池上伊織宗治 土瓦 師望月作兵衛

小倉源八常延 柿屋根師池上平兵衛

以上裏書

大鐘楼 三間四方 九柱十二本立

施主南巨摩郡南条組題目結社中

明治十三年 庚辰 三月廿六日 再建新初

同 十四年 辛巳 十二月三日 大鐘楼初

同 十五年 壬午 五月二十四日 落成上棟

表母 明治十五年大陰曆四月八日大鐘楼再建落成之際

棟札 檼板長一尺八寸 身延山日鑑判形

書於祖山極神閣 祈施主南条結社中家門水久

表母 普請幹事

體遊院日珎聖人

本願人 大工棟梁池上伊織宗治

春米村小林小太郎 同 子息亀之頭宗正

同 村土屋七郎右衛門 同 樋口勘十郎義高

(25ウ)

(25オ)

身延山諸堂記外(北沢)

落合村新津 又兵衛 柚木 挽青 柳惣八

世話人 屋根 師池上平兵衛

大們村井上五左衛門 石 工小林平之丞

同 村河 住宗四郎

当中町池上 与兵衛 以上裏書

大鐘楼家根土瓦葺

明治廿年 丁亥 四月落成七十五世修師代

釈迦堂九間七間半 四方椽各三尺宛 元ト檜皮葺也 土瓦ト改ル

元ト西谷檜林ノ殿堂也一祈ノ際樹林圍シニ付開山宗祖ノ
仮堂トシテ元ト大方丈ノ地五引移シ再建ス

右講堂ハ寛文九 己酉 歲明治八乙亥年 第二十九世 日蓮

師棟札善学院第八世興源院日蓮代江府 安藤寺岐

守重常為ニ慈父伊賀守重元号法進行院道円日覚居士

追薦寛文八戊申 十月開日辛喜拾黄金一千両一建ニ立之 右徒重

立至二百七年

明治八 乙亥 年三月廿一日移ニ此地 柱立同五月十日

祖師遷座十二三十四日開堂供養令ニ落成一也

(明治八年五月十日ヨリ 同十四年四月廿九日迄)

釈迦尊像安置歴像也

東京青山山寿院里見日球寄進ス

(27ウ)

(27オ)

鯛口 右仙寿院ヨリ納之
左右正当山歴代安置

日向日進日善上人木像 厨子入各朱塗

台師ヨリ七十四代迄金位牌 各厨子入朱塗 監師遊立之

前机右二 五具足 左二組 木金蓮華右二对

明治十五年四月新ニ彫刻 七十四代監師代

山主ノ経机 同箱 鑿 同台 過去帳 同台各朱塗

明治九年 丙子 四月納 施主東京

山主ノ礼盤明治十四巳年朱ニ塗替ス

下山本國寺ヨリ納 明治八年 乙亥 五月

釈尊前前机鍍金塗 明治十七年甲申十一月新刻 五具足 金蓮

華一对

生花ノ花瓶二

金灯籠其飾 台朱塗 文政十三年戊七月 江戸投草大坂屋助納

御経机 同圓座メハジキ朱塗 元政机ナリ 五拾脚

施主機毎ニ付有之 明治 年

打鳴シ 同台 施主

出仕ノ半鐘

同 太鼓

釈迦堂ヨリ登リ渡リ廊下長折廻シ拾五間 其骨堂ノ拜殿ニ 巾九尺

(28ウ)

(28オ)

明治十四年巳二月落成」

自然石水盥雨屋七尺」明治八年乙亥五月十日成就」

〔註〕

(1) 明治九年四月八日上棟(頭註)

奥位牌堂六間二尺 土瓦ニ改

(32オ)

元ト西谷本行坊客殿移此地再興成就ス此ノ殿ハ嘉永七甲寅歳十月六十
七世日繼形棟札有之」本行坊三十七世是感院日行聖建立之」

嘉永七甲寅年ヨリ

至三十二年 明治八年乙亥四月七日移此地柱立同

五月十日落成御真骨ノ仮殿トスル」

唐紙二十四本ノ函ハ東京深川宗巨齊齋形ノ篋

位牌檀四箇所 旧紀州侯左京侯阿侯ヨリ金八十円」

明治九年丙子八月落成 阿侯ノ位牌安置ス」

宝塔一基 明治八年亥六月武州川越行伝寺」

此宝塔明治十四年巳十一月廿一日宗祖分骨ノ際之」

明治八年五月十日ヨリ 同十四年三月廿二日マテ 御真骨仮殿也其後位牌堂トス」

納骨長持黒蓋 明治十四年ニ塗替」

日月牌ノ位牌」

礼盤黒蓋 明治十四年ニ新造」

御経机 同函 鑿 同台 過去帳台朱塗」

西谷練堂ノ具也」

身延山諸堂記外(北沢)

過去帳一冊」

渡り廊下 奥位牌堂ヨリ 長四間 中七尺

明治八年乙亥五月十日落成」

〔註〕

(1) 明治二年己巳四月朔日五十三歳化

(2) 明治九年四月八日上棟(頭註)

奥書院四間 井山主居間四間新造合十一間五尺

右奥書院ハ元ト清水坊ノ書院ヲ引移此地再興ス」

文政七甲申年五十五世通師棟札清水坊第二十七世」啓運院日修聖新建立也」

此ノ地元ト御真骨宝藏ノ陸江移引 文政七甲申年ヨリ五十三年ニ至ル」

明治九年 丙子三月一日柱立同四月廿五日落成」移徙

也同五月一日旧四月八日上棟 薩師代」

大工棟梁池上伊織宗治小倉源八郎常延」

〔註〕

(1) 弘化二乙巳年五月二十八日化

大書院新造立五間 棟左右四尺五寸ツ、瓦家根

元ト奥書院ノ陸地江南向ニ建立」

明治九年 丙子 四月十四日立柱同年八月」土瓦葺落成

(35オ)

(36オ)

身延山諸堂記外（北沢）

大工棟梁池上伊織宗治

小倉源八常冠

上ノ間床并 唐紙古法服越前守元伯ノ繪也
往古ノ水嶋様ノ画也表具土蔵ニ有此度裝

二ノ間三ノ間ノ唐紙ノ繪ハ東京中橋狩野永應立信筆

欄間四枚ノ彫明治十五年壬午十月成就
彫工後藤功祐

廊下從大僧院ニ長拾五間
至奥僧院ニ中七尺 明治九年子四月

小書院九間四尺 第七十四世鑑師代

元ト山主ノ唐閣ノ旧地在西谷本是院頭寮以テ再興ス
此ノ寮天保年間新造ナリ

明治十四年 辛巳 歳六百遠忌手狭ニ付此ノ地五 造立

同十五年 壬午 年造作 大工棟梁池上伊織宗治

廊下大僧院ヨリ小僧院ニ長十一間
泉水ノ上ヲ渡ル 中六尺

〔註〕

(1)(2) 焼失へ頭註・朱字

講究所六間 玄関式台新造二丈 元ト孝修
三間 十五ニ改

元ト水嶋様ノ旧跡江西南谷妙支庵ヲ引移此地再興ス
右妙支庵ハ支路開闢ノ寮也宝永年中三十三番守節ノ模札有之

明治八年 乙亥 六月十六日柱立同年九月上葺落成

同 年十二月八日吉辰移徙也

生徒寮并 廊下新造三間半 同時ニ移徙也

(38ウ)

渡廊下生徒寮ヨリ 長三間
奥位牌堂ニ 中六尺 同時ニ落成

同廊下講究所ヨリ 長五間
大僧院ニ至 中七尺 明治九年丙子四月

明治九年 丙子 五月一日旧四月上棟 薩師代

〔註〕

(1)(2)(3)(4) 焼失へ頭註・朱字

飯厨司 庫裏ナリ 八間 庇九尺 元ト孝修
土瓦ニ改

受附所二間半 内玄関式台八尺新造

元ト唐司ノ上ノ位江建ル西谷書院ノ庫裏ヲ引移此地
右庫裏ハ宝曆年間四十一世妙師判形模札有之

明治八年 乙亥 十月廿二日柱立同年十二月八日 移徙

落成也同九年 丙子 旧四月八日上棟 薩師代

物置長屋二間 殿倉味喰倉細工場也 吉村木ヲ以テ造立之 明治八年十二月

〔註〕

(1)(2)(3) 焼失へ頭註・朱字

普請会所六間半 庇九尺 西谷川向法梁坊ノ元ト大方丈ノ西江建之
四間 明治八年乙亥一月

同会所并 本願人詰所建替十三間四尺

替地元ト御供所ノ地江引テ立之
明治十三年庚辰ノ秋

(39オ)

(41オ)(40ウ)

尾州世話人会所〔四間半〕 西谷光精坊ヲ引テ舞台ノ地五立之〔明治九年丙子四月〕

人足休息所〔四間〕 西谷妙壽坊ヲ以本堂ノ西五立之〔明治九年丙子三月〕

普請作事小屋〔御供所ト舞台ノ間ニ立之〕

作事小屋〔六間〕 元ト門師堂ヨリニ重樑迄ノ間西ノ方五立之〔明治八年乙亥二月〕
〔明治九年丙子十月〕

明治八年乙亥〔從二月至十二月八日移徙迄一ケ年分〕

普請入費古堂宇ヲ以建之

一金千五百拾円 仮祖師堂 金六十七円 会所

一金七百五十円 仮真骨堂 金九十円 廊下

一金二千三百円 講究所 金七十円 小屋〔三ヶ所〕

一金千五百円 庫 裏 金五百円 地〔石積〕

一金拾三 円 水鉢雨屋

右九口計金六千四百四拾円也

本堂十五間四方

明治十五年壬午三月二日吉辰新初

大工池上伊織宗治〔同子息〕池上亀之亟宗正樋口勘十郎 義

高

法喜堂〔十二間半〕 馬町御堂ナリ〔十三間半底共〕

身延山諸堂記外〔北沢〕

(54オ)

施主甲駿兩國寺院并信徒中〔朱字〕

明治十六年癸未二月二十日〔旧正月十三日〕 再建新初

同年六月二十九日〔旧五月廿五日〕 柱立

同年十一月十日〔旧十月十二日〕 落成御移徙

棟札 身延山日鑑判形〔七十四世〕

法喜堂三本李ノ額 七十四世鑑師ノ筆

明治十七年甲申一月奉掛〔彫工池上伊織宗治 鑿師海沼忠八郎〕

土瓦家根 明治廿三年庚寅 旧ノ十月落成

七十五世修師代

大客殿

東京於深川奥院宗祖開帳以集金初之

明治十八年乙酉八月四日〔旧六月廿四日〕 再建新初 鑑師代

同十九年丙戌三月廿八日立柱〔鑿師遷化 無住中〕

同年六月柿板葺成就右開斷

大玄閣式台

内玄閣式台

右同時ニ造立之〔七十五世修師八十九年七月十三日入山〕

建具障子雨戸等 明治廿三年ノ春当山ニテ居開帳ノ際ニ造立之七十五世修師代

(56オ)

身延山諸堂記外（北沢）

(56ウ) 御欄間 大正六年五月東京本郷唱導結社「施主トナ
リ御料林松下奉納金ノ割戻金」ニ一般寄付ヲ募リ

七尺六寸三寸七寸三枚」同（私記）へ七尺六寸二尺八寸
三枚」総檜材ヲ以テ製作シ七年五月五日取付ク」
發起人山本常松（本郷四丁目）」

製作人金子吉兵衛（下谷路輪寺付近）」

(63オ) 自厚山清（イ）寺建立 本院隠居所也」

元ト（イ）樋沢坊ノ旧地（イ）新建立也」

明治十八年乙酉九月廿二日（季）「（イ）旧八月十四日」（イ）新初」

同十九年丙戌四月落成」

七十四世鑑師御隠居所自普請也御移リ無之遷化ス」（イ）

〔註〕

(1) (明治)十九年一月十三日

(65オ) 納骨堂土蔵 元ト（イ）灯室ノ地（イ）立立」

明治廿二年造立ニ（イ）重屋（イ）元ト上ノ山松平（イ）顯成守（イ）仙院殿ノ（イ）廟（イ）増引（イ）私
建之」
明治廿三年十月銅瓦家根落成同九輪（イ）上（イ）」

(68オ) 宗祖御草庵之旧跡」

(68ウ) 此ノ処ハ宗祖文永十一年六月十七日初テ入山在ラセ
ラレ」（イ）山最初御建立十間四面ノ堂地也九ヶ年説誦」
説法書写本尊著述諸書ノ靈地也從ニ往古」真俗葬送
ノ場トス山地狭少ニシテ別ニ無（イ）広地故歟」仰キ願
ハ後代ノ貫主此ノ処ハ為ニ清淨靈地立（イ）四方境」葬
場ハ別ニ可レ設レ之云右三十三世亨師ノ申置有レ之」
依テ今般明治廿二年駿州内房本成寺住職」鶉川日行
發起同志ヲ集メ（イ）釈迦堂ヲ妙福坊ノ前五」引移シ十間
四面ノ旧跡（イ）御影石ヲ以テ玉垣ヲ新ニ建立」中央ニ
宝塔ヲ建立ス諸國（イ）鏡ヲ築テ（イ）鑄立唐銅」
拾間四面（イ）御影石ニテ玉垣明治廿三年（イ）庚寅七月」落
成（イ）七十（イ）修師御代」
此ノ御施主酒井家御隠居顯寿院殿」入用金（イ）」

〔註〕

(1) 并葬場共ナリ

(69オ付) 宝物館建設」

一大正十四年五月六日起工大正十五年四月十三日竣
成」

一建設費金七万円也」

内金貳万四千元 本山出資」

金四万六千元 小林八右衛門出資」

小林八右衛門出資ニ対シテハ向フ十ケ年間ニ元利

金共観覧料ヲ以テ償還シ」不足ヲ生シタル場合ハ

本山會計ヨリ補給ノ約」

一棟梁 池上鶴三郎 工事監督 阿部多朗」

一建設発起人 加茂日養 富川玄快 中村是本 太

田日定」 小林諦照 小林八右衛門 小林豊蔵」

〔註〕

(1) この一条は別紙に記入の上貼付してある。

飯山門落成明治二十三年五月二日 修師代」

山門落成明治二十三年五月二日 良師代」

小檀林教場」

祖山学院築間五
桁行十二間三尺」

大正六年四月十七日新始メ」

身延山諸堂記外(北沢)

(80オ)

電灯敷設^①

〔註〕

(1) 板心によるが、本文の記載はない。